シルクレポート　2009. 3月号

No.5

>>> Contents

●提携支援センターから
群馬県オリジナル蚕品種を主とした純国産絹製品つくり ・・・・・・・ ❶
ニット絹製品をもっと身近に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ❻
京都の繭・その精神性と復活の道 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ❾
富岡シルクブランド協議会の活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ⓬
提携支援センター活動日誌№5・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ⓯
純国産絹マーク使用許諾について (平成 20 年度第 4 次分) ・・・・・・ ⓰
コーディネーター活動の紹介③ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ⓳

●今月の話題
蚕糸絹文化活性化推進事業を拡充・強化
～ 提携システム推進のため、意欲ある養蚕農家を支援 ～
・・・・・・・ (財) 大日本蚕糸会 蚕糸絹文化活性化推進協議会事務局 ㉒

●国内情報
蚕糸科学研究所における絹新素材開発の過程
・・・・・・・・ (財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 所長　西出　照雄 ㉗
平成 20 年度福島県養蚕振興セミナー開催
・・・・・・・・・・ 福島県農林水産部園芸課 主幹兼副課長　目黒　友 ㉜

●海外情報
第 21 回国際養蚕委員会 (ISC) 学術大会に参加して
・・・・・・ 独立行政法人農業生物資源研究所 ユニット長　髙林　千幸 ㊱

●トピックス
国内産地情報、海外情報（中国）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ㊷

●シルク豆辞典
シルクの豆辞典 (20) 桑の薬効 (3) －桑樹は天魔も避ける霊木－
・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 信州大学名誉教授　嶋崎　昭典 ㊺

●イベント情報 ㊽
●登録コーディネーター一覧 ㊾
●蚕糸関係博物館一覧 ㊶
●蚕糸団体ホームページ一覧 ㊷
●統計資料 ㊸
（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧下さい。）

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、インターネット（http://www.silk-teikei.jp/）でもご覧になれます。

＜提携グループの動き　(1)＞

群馬県オリジナル蚕品種を主とした純国産絹製品つくり

日本蚕糸絹業開発協同組合国産シルク研究会

裏絹製造卸の絹小沢株式会社が群馬のブランド生糸をはじめ純国産の生糸を 100％使用しての商品づくりを始めたのは平成８年（1996）のことでした。

付加価値の低い裏絹は、安い輸入糸を使ったものとの競合が激しい商品だけに、それまで目新しい加工等で付加価値を高めた話題性のある裏絹を提案発売してきた同社にとっても限界を感じていた時でした。このため、同社は、養蚕農家と関係業者の協力を得て一環とした組織づくりに立ち上がりました。

純国産の裏絹つくり

そこで注目したのが、群馬県蚕業試験場 (現 群馬県蚕糸技術センター) が 13 年を要して育成したオリジナル蚕品種「世紀二一」。この「世紀二一」の生糸を 100％使用製織し、さらに UV カット・防汚・撥水等複合シルクケア効果のあるパーリー加工を施すなど、約 10 ヶ月をかけて完成させた商品が「SUPER SILK 世紀２１ 胴裏絹」でした。

時は、20 世紀の終わり間じか、21 世紀を目前にしたタイミングの良い商品名ということで、商品の文庫 (パッケージ) ・宣伝用のポスターのデザインにも 21 世紀の幕開けをイメージさせる、「宇宙のかなたに地球が見える」という人工衛星から撮影した写真（貸しネガ屋から借用）を採用し “蚕から生糸そして裏絹までの統一ブランド「世紀２１」” をキャッチフレーズに、翌 平成９年 (1997) ６月、京都商談会（同社が平成元年から毎年６月京都で開催している商談会）の会場で大々的にお披露目発表した次第でした。

また、時を同じくして同会場の一部で、群馬県と群馬県蚕糸振興事業協会（現 群馬県蚕糸振興協会）が共催で「ぐんまの絹・世紀 21 作品展」を開催。江戸小紋作家 藍田正雄氏や評論家 俵萌子氏（平成 20 年没）等の作品４０点余りが展示され、群馬県産シルクのアピールを図り、相乗効果で賑わったのが思い出されます。

ちなみに、この時展示された俵萌子氏の訪問着は、氏が同年４月フランスはブルゴーニュ、クロ・ド・ブージョ という中世の城で行われた“ワインの騎士”の称号の叙任式とその後の大晩餐会で着たもので、「世紀二一」を使用し、ご自身でデザインし、ご自身が好きなヤマボウシをあしらった黄色の着物で、「晴れの舞台で絶賛を浴び、並居る世界中の女性のイブニングドレスを圧倒し、男たちのうっとりした視線を受けて気持ち良かった！」と、同氏が自慢をしていた逸品でした。

事業協同組合の設立

この「世紀 21 胴裏絹」を皮切りに、群馬県が誇るオリジナル生糸をはじめ純国産生糸を使用した様々な商品（後記）を関係諸研究機関・行政・製糸・製織・染加工・販売業者等の協力、連携によって次々に開発してきましたが、この川上から川下までの連携システムをより強固で確実なものにする目的で平成 17 年４月 日本蚕糸絹業開発協同組合を設立いたしました。

設立当初は、群馬県認可の組合であったため組合員は群馬県内に限定され、県外は賛助会員ということで多少温度差がありましたので、３年後の平成 20 年４月 関東経済産業局認可の組合に移行、現在 13 社が正組合員ということで新商品開発等の活動をおこなっている現状です。

平成 20 年２月、農林水産省が危機的状況にある日本の蚕糸業の再生と持続的発展を目指す蚕糸・絹業提携支援緊急対策を発表。これを推進するため（財）大日本蚕糸会に「蚕糸・絹業提携支援センター」が発足。当組合もこれを受けて、群馬のブランド生糸使用の商品を対象に、提携グループの一つとして組合内に「国産シルク研究会」を立ち上げ認可を受け、約一年を必死で対応して参りました。これにつづき次年度は、普通品種を使用した商品対象にグループ化し、今まで 10 余年に亘り培ってきた経験・ノーハウを活かし、蚕糸・絹業の再生と当研究会の生き残りを賭けた戦いが始まる予定です。

群馬 の オリジナルブランド生糸 及び純国産生糸 (普通品種) を 100%使用した開発商品（年代順）の紹介

世紀 21 胴裏絹　　1997(H. 9) ／ 5 ～

「世紀二一」の生糸を 100％使用し製織。UV カット、防汚、撥水等数々の複合的シルクケア機能をもつパーリー加工を施した裏絹。

世紀 21 紋付地　　1998(H.10) ／ 8 ～

「世紀二一」の生糸を 100％使用し製織。槐の重ね染めで、より深い黒に染め上げ、防帯電・防水・防汚・防虫効果の優れたクリスタルガード加工を施した紋付地。

世紀 21 紋付地　夏物（駒絽）
1998(H.10) ／ 8 ～

「世紀二一」の生糸を 100％使用し製織。槐の重ね染めで、より深い黒に染め上げ、防帯電・防水・防汚・防虫効果の優れたクリスタルガード加工を施した紋付地。

世紀 21 白生地　　1998(H.10) ／ 8 ～

「世紀二一」の生糸を 100％使用し製織。優れた染色性を誇る白生地。

ぐんま 200 胴裏絹　―トルマリン加工―
1998(H.10) ／ 9 ～

「ぐんま 200」の生糸を 100％使用し製織。マイナスイオン効果、遠赤外線効果、消臭効果等のあるトルマリンの微粉末を特許製法にて精練段階で練り込んだ裏絹。

世紀 21 長襦袢地　2001（H.13）／ 12 ～

「世紀二一」の生糸を 100％使用し製織。保湿効果、抗菌効果のあるアロエ／キトサン加工を施した長襦袢地。

ぐんま 200 胴裏絹　―灰汁浸け加工―
2003(H.15) ／ 5 ～

「ぐんま 200」の生糸を 100％使用し製織。防カビ性、抗菌性、防縮・保湿性、変色防止等に優れた効果のある灰汁浸け加工を施した裏絹。

新小石丸 胴裏絹　　2003(H.15) ／ 7 ～

緯糸に「新小石丸」、経糸に「ぐんま 200」の生糸を使用し製織。

絹本来の光沢が損なわれないように低温、短時間で処理する酵素精練法により精練加工した最高品質の裏絹。

ぐんま レピア 胴裏絹　2004(H.16) ／ 6 ～

群馬県産生糸を 100％使用し製織。絹本来の光沢が損なわれないように低温、短時間で処理する酵素精練法により精練加工した高品質の裏絹。

ぐんま レピア 胴裏絹　―パールトーン加工―　2004(H.16)／6～

群馬県産生糸を 100％使用し製織。絹本来の光沢が損なわれないように低温、短時間で処理する酵素精練法により精練。さらに撥水効果、消臭効果などの特性をもつパールトーン加工を施した高品質の裏絹。

新小石丸　白生地　変わり三越ちりめん４丈（東雲）　2005（H.17）／9～

「新小石丸」の生糸を 100％使用し製織した東雲ちりめん。

染上がりが美しく深みがあり、しっとりとした絹の味も兼備えた白生地。

群馬羽二重 レピア 胴裏絹　―検査品―　2006(H.18)／1～

群馬県産生糸を 100％使用し製織。絹本来の光沢が損なわれないように低温、短時間で処理する酵素精練法により精練加工。

さらに　公的機関：財団法人 日本繊維製品品質技術センター（略称 QTEC）の指導により厳正に検査された裏絹。

ぐんま 200 胴裏絹　―酵素練加工・現代巾 76cm―　2006（H.18）／4～

「ぐんま 200」の生糸を 100％使用し製織。絹本来の光沢が損なわれないように低温、短時間で処理する酵素精練法により加工した高品質の裏絹。

新小石丸　白生地　変わり一越ちりめん３丈 (松波)　2006（H.18）／10～

「新小石丸」の生糸を 100％使用し製織した松波ちりめん。

染上がりが美しく深みがあり、しっとりとした絹の味も兼備えた白生地。

経糸の品質がそのまま織物に反映されるため、経糸の管理が最も難しい。

新小石丸　白生地　夏物　2007(H.19)／3～

「新小石丸」の生糸を 100％使用し製織した夏物ちりめん。

染上がりが美しく深みがあり、今までにない味の夏物白生地。

絹の花 ぐんま黄金　胴裏絹

2008（H.20）／6～

緯糸に「ぐんま黄金」、経糸に「ぐんま200」の生糸を使用し製織。

防カビ性、抗菌性、防縮・保湿性、変色防止等に優れた効果のある、日本古来からの技法「灰汁浸け加工」を施した裏絹。

世界絹遺産　紋意匠ちりめん白生地

2008（H20）／6～

緯糸に「上州絹星」、経糸に「ぐんま200」の生糸を使用し製織。

抜群の染色性と、摩擦抵抗性、防しわ性に優れた特徴をもつ白生地。

ぐんま 200　八掛地

2009（H.21）／2～

「ぐんま 200」の生糸を 100％使用し製織。特注染めを基本とした精華八掛地。

＜提携グループの動き　(2)＞

ニット絹製品をもっと身近に

門倉メリヤス株式会社
代表取締役　門倉　重行

はじめに

絹製品といえば着物がその代表格ですが、現代では日本人が普段の生活で着物を着る機会はほとんどありません。その風合いといい、光沢、肌触りといい、数ある繊維の中で他の追随を許さない気品あふれる〝絹〟。日本の文化でもある絹製品をもっと身近なものにしたい、もっと気軽に着てもらえたら…。そんな思いからシルクニット製品作りを思い立ちました。

「着物よりも格段に安く、しかもニット製品なら簡単に着る事ができ、お客さまにも喜んでもらえるのではないか」。という思いが出発点でした。そこで平成６年、材料である絹糸を求めるため、養蚕や絹産業に対して深い理解と協力を示している地元、群馬県に相談することにしたのです。

ニットに向く蚕品種開発へ

群馬県はかつて富岡製糸場が栄え、桐生や伊勢崎は織物業が盛んだったことから、今でも養蚕業に力を注いでいます。県オリジナルの蚕品種も何種類も開発していま す。それらの繭からとれた生糸を使って早速試作品を作ってみましたが、細い絹糸で作ったニットはだらつき感やひっかかりがあり、ニット製品には向かないことがわかりました。

ニットに向く太繊度の生糸を求めて国の試験場にも出向きました。そこで分けてもらった蚕品種を持ち帰り、県内の養蚕農家で育てた繭で初めて製品化にこぎつけることが出来ました。しかし県内の絹産業発展のためには、県ブランド奨励蚕品種（群馬オリジナル蚕品種）の繭を原料とした絹製品の生産・販売促進をしてほしいという意向もあって、県は新品種の開発を進めてくれましたが、なかなか「これだ」という品種にめぐり合うことは出来ませんでした。私としても「消費者の喜ぶ製品作り」が大前提ですから、妥協するわけにはまいりません。試行錯誤を繰り返し、ようやく県蚕糸技術センターにより日本種同士の交雑種「FGN1 × N510」が開発され、翌年の平成15年２月に「蚕太（サンタ）」と命名されました。

蚕太の繭

繭糸の太さは従来の倍

ポルトガル語では〝聖なるもの、聖者〟の意味を持つ「サンタ」の呼び名に相応しく、「蚕太」はこれまで国内外でも類を見ない、繭糸の太さ 4 デニール以上という太繊度の蚕品種として誕生したのです。従来の繭糸の倍以上という太さで、コシ、シャリ感、強度もあり、シルクニット製品の素材としては最高の蚕品種となりました。まさにシルクニットの救世主のような存在感です。糸の断面図を顕微鏡で見てみると形状がさまざまなため、編んだときの密度が濃くなり、透けないという利点もあり、ニット製作に最適な繭糸だったのです。

課題は〝育てにくさ〟

創案から約十年、やっと待望の蚕品種が開発されたわけですが、まだまだ多くの課題が残されています。「蚕太」は育てにくいという難点があるのです。日本種同士を交配させているため、あまり丈夫な品種ではなくどうしても病気にかかりやすい。また、熟蚕になったときにネットをかけても上に上がってこなかったり、上がってもまた下まで潜り込んでしまったりと、蚕を拾い上げる作業が大変です。それともう一つ、収繭量が少ないということです。通常 3 万粒で約 60kg 採れますが「蚕太」は 50kg くらいしか収繭できないのです。当然、繭単価を高くしないと養蚕農家の方も飼育したがりません。現在は県内 8 軒の養蚕農家で「蚕太」の飼育をしてもらっていますが、高齢化や後継者不足の問題もあります。年間 1200 kgの繭を要求しているのですが、約半分しか収繭出来ないのが現状です。養蚕農家の確保も急務ですが、併せて、病気に強く収繭量も多く育てやすい、「蚕太」よりさらに太繊度の蚕品種が開発されることを願っております。

絹産業発展に向けて

現在、弊社では「蚕太」の繭糸を使い、さまざまなニット製品を製造・販売してお

5本指ソックス

ります。高品質な県産繭を製糸、撚糸、染色を行い製品にしております。婦人用セーター、ベスト、ジャケットなどはもちろん、紳士用５本指ソックス、若者用に県内の大学生と共同開発したウォッチバンドなどがあります。

「蚕太」の糸で製作したニットは長く着ていても型崩れがなく、家庭での洗濯も可能なのでお客様にも好評です。高級感あふれる絹製品を少しでも廉価でお客様に提供出来るよう、直販も行うなど企業努力に努めております。

群馬の絹の活性化を目的に、県庁や、「日本絹の里」、都内にある県の観光物産を紹介する「ぐんまちゃん家」などでも年に数回、展示・即売を行っております。

伝統ある絹産業発展のため、また、すばらしい絹をもっと身近なものにしたいという一心でやってきた取り組みが認められ、このたび大日本蚕糸会から蚕糸功労賞を拝受いたしましたことは身に余る光栄と存じます。これもひとえに「蚕太」開発に携わった関係者や養蚕農家の方々のお陰と心より感謝しております。今後も「純国産絹マーク」の名に恥じない製品作りに、なお一層の研鑽を積んでいく所存です。

蚕太を使ったシルクニット製品

＜提携グループの動き　(3)＞

京都の繭・その精神性と復活の道

織道楽　塩野屋
代　表　服部　芳和

良質繭を求めて

織道楽　塩野屋では 2005 年の秋から京都の養蚕農家３軒とのお付き合いが始まりました。以前から品質保証と出所の表示を基本的な考え方として物創りの根底に据えていましたが、その年の年末には四国の藤村製糸が廃業を決めて、ブラジルでの生糸生産に乗り出した時でした。塩野屋ではそれまで藤村製糸から国産糸を買っていたのですが、その道が閉ざされる状況に陥ったために、思いついたのは繭を自社生産できないものかでした。

塩野屋は 14 代続く京都の織元です。初代喜右衛門は江戸の中期に滋賀県の塩野村から京都に出て来ており、何代も御召の元祖である「柳条縮緬」の製造に携わっていた歴史があります。現在でも 15 人の職人集団による分業専業体制でその柳条縮緬を製造しておりましたが、一番大切に考えているのが品質の向上を目指して長期使用可能な商品を創ることでした。その根本が上質な繭であり、製糸方法や撚糸技術や精練方法などです。その分野に技術革新の余地がまだまだ残されていると以前から考えていましたので、良質な繭・糸の自社生産の方向性を確立したいと大舵を切りました。

歴史に学び提携システム誕生へ

京都では明治の中期以降に波多野鶴吉という人が、現在の綾部市に郡是（グンゼ）という会社を起こして国内でも有数の養蚕圏に仕立て上げた歴史があります。元々北桑田郡（現在の右京区京北町）とか南桑田郡（現在の亀岡市）などと地名にも残っているように京都は 1200 年の以前から養蚕を日本に持ち込んだ秦族が住んでいたところでもあったので考えてみれば養蚕に向いた土地柄なのかもしれません。最盛期には３万軒の養蚕農家が綾部・福知山周辺には存在したそうです。郡是という社名も当時は是という考えが大切だとの認識からです。何鹿郡の是を目指し人々の幸せの蚕業として養蚕をひろめたのが波多野鶴吉氏だったと知りました。それなのに今は３軒しか養蚕農家は残っていません。不思議でしたが、運良くというか直接に買い取る方向

で 2005 年の年末には 5 年契約が結ばれて農家との直接提携システム誕生となったのです。塩野屋ですぐに自社生産とは行きませんでしたが、養蚕を繭のレベルから勉強できる仕組みが立ち上がりました。当初 5 年後には 1Kg 4,000 円で繭を買い取る目標を定めて、波多野鶴吉氏の想いを少しでも現在に実行できればと考えていました。

夢を求めてチャレンジ

なぜ塩野屋が繭から買い上げて織物が作れるかという質問には、先染織物の職人集団が西陣にはまだ残っていてくれるからだと声高に言いたいのです。ところが、急がねばその集団にも高齢化の波が押し寄せて来ており亀裂が出ないとも限りません。織物創りはまるで生態系のように職人の手から手へ糸が循環して成り立っているのです。どこかが欠落すると全体が動きません。廻らなくなったものを無理やり廻すとひびが入りもう復活不可能なことになります。早くオルターナティブな販売体制の仕組みを創ることこそ大切であり、需要が増せば職人の集団的製造体制の復活が期待できます。この夢を叶えるために塩野屋は小さくチャレンジしたいと行動しました。

さて京都の 3 軒の養蚕農家に行ってびっくりしたことは、蚕種は蚕種メーカーから塩野屋が買い付けねばならないことでした。そしてもっと驚いたのは掃立てという儀式があって、蚕種屋さんから届いた蚕の卵の上に小さく切った桑の葉を乗せる「呼出桑 (よびだしぐわ)」というセレモニーを見たときでした。連綿と続けられている昔からの飼育方法の中に、蚕の命や尊厳が内在している様子を見せられたからです。国内の養蚕のほとんど 90％以上は人工飼料で稚蚕飼育をしていて、京都の各農家ごとの全令桑飼育方式は珍しいとのことでした。でも 10 年前までは、京都でも 10 軒以上の養蚕農家が存在していて、稚蚕時は人工飼料育をしていたとか。残った 3 軒ではそのシステム設備が維持できなくて、昔ながらの全令桑飼育に戻ったらしく、反対にこれが京都の特徴でありこれからの方向性を示すものと捉えました。すべての製造プロセスに於いて限りなく環境保全型である事が次代の必須条件なのですから。

写真 1 「集繭された都浅黄繭（緑繭）」

写真 2 「桑の植付風景」

写真３　「小学生に養蚕を教える筆者」

写真４　「養蚕見学ツアー」

絹業界復活の道

物質的に豊かではない風土が、すべての材料を使い切る精神性を育み、日本の絹文化の特徴となったことを塩野屋は今一度ビジネスとして重大に捉えたいと考えています。

小学生の授業で蚕の飼育を紹介して、子供たちに命についての勉強や良い材料の見分け方や、絹に対する興味を抱いてもらう事が未来の絹業界の復活に繋がる近道と考えて、近所の小学校において年に数回授業に取り入れてもらっています。春には蚕飼育キットなるものも販売したいとも思案中です。また養蚕の見学ツアーも年間に十数回を企画して、一般の消費者を京都福知山の農家に見学案内をしています。大呂という隣村では去年に桑の木を千本近く植えて、桑園の確保に努力されるお手伝いもしています。養蚕の手ほどきを受けたい人にも、今年から研修プログラムを用意して昔ながらの「わらまぶし」による上蔟も経験できるようにしたいと思います。

塩野屋では純国産絹のボディタオルや真綿入りマスク、珈琲フィルターなど日常に使える商品にも力を入れています。今後は京都方式による生産特徴を生かしできるだけ多くの人に本当の絹の良さを伝える努力を重ねていく覚悟です。皆様、どうぞよろしくご協力をしてくださることをお願い申し上げます。

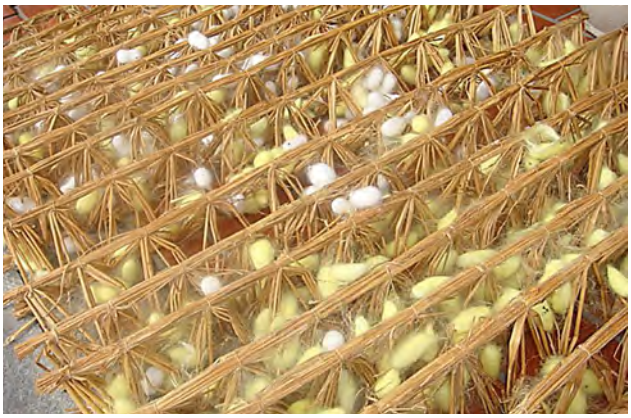

写真５　「昔ながらのわらマブシ」

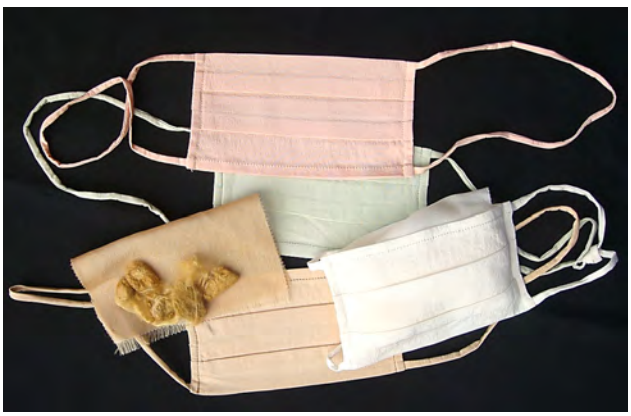

写真６　「真綿入りシルクマスク」

＜提携グループの動き　(4) ＞

富岡シルクブランド協議会の活動状況

富岡市シルクブランド協議会

日本の繭生産量は、今から約 80 年前 1930 年（昭和 5 年）の 40 万トンをピークに減少し、昭和 40 年代に持ち直しの傾向が見られたものの平成 18 年には 505 トンまで落ち込んでしまいました。群馬県においても昭和 43 年に 27,440 トンあった繭生産量が平成 18 年には 225 トンと激減しています。また、繭生産量の減少に伴う製糸業の衰退も著しく、平成元年に 53 あった国内製糸工場数は、平成 18 年にはわずか 2 工場を残すのみとなってしまいました。そのうちのひとつが富岡市の隣市にある碓氷製糸農業協同組合です。

これら衰退の原因は、安い労働力に支えられた海外の低価格繭の流入、後継者不足など社会的構造の変化、また、日本人の生活様式が和から洋装へ変化したことにより絹の消費量が減ったことなどがあり、その難しい対応に迫られています。

富岡市の現状

現在、富岡市は、富岡製糸場の世界遺産登録を目指して群馬県と一体になった推進活動を行っています。ご存知のように平成 19 年 1 月 30 日には「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、世界遺産暫定リストに記載され、着々と登録に向けた運動が活発化しています。

明治時代、政府が富岡製糸場を富岡の地に建てた理由の 1 つに原材料である良質の繭が大量に生産された地域であったことが挙げられています。

しかし、この富岡の地の養蚕農家でさえ平成 20 年の春繭取組農家は 22 戸と激減しており、このままでは消滅の危惧さえあります。富岡製糸場の世界遺産登録が叶ったとしても、この富岡の地から生産される繭が無くなってしまったら、本当の意味での世界遺産ではないと、私たちは考えています。富岡製糸場のような産業遺産の価値は、この地にそのシステム、つまり蚕糸業、絹業のシステムが生き続けていることが必要不可欠だからです。そのためには、養蚕農家が誇りと技術を持って蚕の成育に励むことが経営安定と持続的発展に繋がり、そのための桑園が広がっていることこそが、

このシステムが生き続けている証となるのです。この景観まで含めた一体での保護を富岡市として取り組むことが、世界遺産を保有する私たちに課せられた責務だと考えています。

富岡シルクブランド協議会の設立と活動

この協議会は、川上にあたる養蚕農家から川下の絹加工・販売業者まで、蚕糸・絹業に携わるすべての過程の関係者がグループを形成し、生産から流通・小売までの連携を強化し、「富岡シルクブランド」の売れる絹製品を開発販売することを目的として、平成 20 年 5 月 7 日設立しました。

富岡製糸場ブリュナ館において開かれた設立総会には、この目的に賛同した市内の養蚕農家、地元農協である JA 甘楽富岡、製糸業者、加工業者及び個人作家などの方々が集まり、岩井賢太郎市長を会長に選出し、その第一歩を踏み出しました。

平成 20 年度は、春繭と晩秋繭合わせて 5,857.5Kg を協議会で収納しました。その際、富岡製糸場内で繭の荷受け作業を行い、春繭は 6 月 16 日から 4 日間、晩秋繭は 10 月 5 日から 3 日間それぞれ実施しました。富岡製糸場での荷受けがおよそ 40 年ぶりに復活となった瞬間でした。金井一男副会長を始めとする養蚕農家のみなさんには、富岡製糸場という慣れない場所での荷受け作業に多大なるご尽力をいただき、おかげさまで来場していた観光客の方々の中には、初めて目にする大量の繭に感嘆の表情を見せたり、養蚕農家の方たちと楽しく談笑するなど、その時を共有したみんなが輝いたひとときを過ごすこととなりました。

これらの繭は、いくつかの加工業者が様々なアイデア、アイテムを試行錯誤しながら商品開発に取り組んでおり、一部の商品は富岡製糸場内売店で既に販売を行っています。（有）繭家の「まゆパフ」は、富岡産の繭を 100％使用してできあがった製品です。また、最近販売を開始した（有）ミラノリブの「まゆ玉プチエステ」も、店頭に並んだ直後から売上が好調な商品です。こちらはシルクニット洗顔パフとまゆ玉がセットになった商品で、中身が富岡産なのはもちろんですが、富岡製糸場をモチーフとしたオリジナルパッケージも魅力のひとつとなっています。富岡製糸場に来場される方に中高年の女性が多いため、これらの美容と健康グッズに自然と手が伸びるのも頷けるところではないでしょうか。いずれもお値段が 1,000 円前後と、ちょうど購入しやすい価格帯であることも要因のひとつでしょうか。

これら商品を開発する一方で、スペシャリティ、究極のシルク製品を開発するという方向も当協議会のもうひとつの軸となっています。その成果として 7 月に北海道で行われた洞爺湖サミットにおいて、当協議会で製作した「ふろしき」を先進国首脳のご夫人方にプレゼントすることができました。製作段階では、時の福田康夫総理大臣の貴代子夫人にデザインを選んでいただき、開催時には単に贈呈するだけではなく日本の伝統的な究極のエコバックである「ふろしき」の実演パフォーマンスも行い、貴代子夫人から福田総理の地元群馬県産の

生糸で作った「ふろしき」であることをアピールしていただきました。なかでもカナダのローリーン夫人がたいへん興味を示していただいたようですが、この模様がほとんど報道されることなく洞爺湖サミットが閉幕してしまったことが残念でなりません。ちなみにこのふろしきは非売品のため市場に出回ることは一切ありませんのであしからず。

11月には、当協議会がフランス・リヨン市において開催されたシルクマーケット（Le marché des Soies）へ出展し、再び世界へ向けた販路開拓の足がかりを築きました。これは、本年が日本とフランスが交流を始めて150年という記念の年にあたること、そして明治初期、富岡製糸場から輸出された生糸の最大の輸出国がフランスであったという背景があります。実際に現地での印象は、さすが絹の街リヨンというべきか、シルクマーケットに訪れた人々はシルクを見る確かな目を持っているという感じでした。今回の出展は、あくまでも展示紹介に限られ販売はできなかったのですが、日本から持参した商品にはたくさんの方々が足を止め、見て触り、その品質の確かさに賞賛の声を数多くいただきました。日本人としての誇りを感じた瞬間でした。

富岡製糸場の活用

一方、養蚕のある風景を残すという観点からも事業を進めています。富岡製糸場内での蚕の飼育展示がそのひとつです。世界遺産登録を目指す富岡製糸場に見学に訪れた方々に、実際に生きている蚕を見てもらうのが狙いです。春から晩秋蚕の展示だけでなく、通年でお客様に蚕を見てもらうため、冬期の展示についても試行錯誤しながら行っています。昔を懐かしむ年配の方や初めて見る蚕に興味津々のお子様などお客様の反応は様々ですが、たいへん好評をいただいているようです。ここにも輝いた光景が再びよみがえったような思いがしてなりません。

昭和62年（1987年）片倉工業㈱が操業を停止してからというもの、今日まで富岡製糸場の繰糸機は稼働していませんが、少しでも製糸場で糸を引く姿を見ていただきたいとの思いから計画を進めているものもあります。今後は、「かつての“ものづくり”の場から、これからの“ものづくり”の場へ」を合言葉に富岡製糸場で製糸を行いたいと考えています。そのためには、多方面の方々のご協力を得ながら一刻も早く実現できることを目指し、これからもその歩みを止めることなく邁進していかなくてはなりません。

このように「富岡シルクブランド協議会」は大海原に小さい帆船ながらも輝きに満ちた船出をしたばかりですが、蚕糸・絹業が産業として残っていかなければ、その技術は富岡の地から消え、小さな船体は海の藻屑となってしまうでしょう。どんなに歴史的資料として後世に伝えたとしても、その技術の復活は難しいものとなってしまいます。なんとしてもこの地に蚕糸・絹業を残していかなければならないのです。

蚕糸・絹業に携わる人々の熱い気持ちが必ずこの小舟（システム）を成功に導くと信じています。

支援センター活動日誌№5（H21.1.1 ～ H21.2.28）

年月日	活　動　内　容　等
21.1.19	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等 （東京都立川市）
21.1.21	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業の進捗状況等打合せ会 （東京都有楽町　蚕糸会館）
21.1.26	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明会等 （福島県福島市）
21.2.2	(社) 日本絹業協会による第 4 回純国産絹マーク審査委員会 （東京都有楽町　蚕糸会館）
21.2.4	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る純国産絹マーク展示コーナー設置打合せ （群馬県立日本絹の里）
21.2.12	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る事業実施事業者への事業遂行状況等の現地調査 （長野県岡谷市）
21.2.13	福島県優良繭生産推進協議会及び財団法人大日本蚕糸会の共催による福島県養蚕振興セミナー （福島県　JA 福島ビル）
21.2.16 ～ 21.2.17	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る事業実施事業者への事業遂行状況等の現地調査 （群馬県前橋市、高崎市、富岡市）
21.2.18	栃木県養蚕産地育成協議会及び財団法人大日本蚕糸会の共催によるとちぎ養蚕活性化研修会 （栃木県宇都宮市　栃木県青年会館）
21.2.24	蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会 （東京都有楽町　蚕糸会館）

「純国産絹マーク審査会」

純国産絹マーク使用許諾について（平成 20 年度第４次分）

社団法人日本絹業協会

純国産絹マークの第４回審査会を本年２月２日（月）に開催しました。今回、21 社（うち、生産履歴の追加申請が１社）から申請があり、審査委員会で審査した結果、下記のとおり 20 社に対し、２月 12 日（木）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

この審査会は、昨年 10 月 31 日の第３回開催（第３次許諾者は 10 社、追加分１社を含む。）に次ぐもので、この結果、本年度の純国産絹マーク使用許諾者は、合計 54 社となります。なお、第１次分の使用許諾内容は「本誌№２」ｐ４～５を、第２次分については「本誌№３」ｐ７～ 10 を、第３次分については「本誌№４」ｐ６～７をご覧ください。

記

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （提携養蚕農家・企業等）
株式会社四季のきもの　おおにし 　代表者名 大西　嘉夫 東京都杉並区高井戸東 1-8-3 （担当者：大西嘉夫） ℡ 03-3329-9374 表示者登録番号 ０３６	後染反物	30 反	繭生産　茨城県南地区養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　三共織物㈱ 染　色　小林染工房、(株) 菱健 及び (株) 一満寿染匠 制作企画　（株）丸上 意　匠　自社
株式会社和幸 　代表者名　高澤　みゆき 埼玉県久喜市中央四丁目 9-11 （担当者：高澤みゆき） ℡ 048-023-7565 表示者登録番号 ０３７	後染反物	30 反	繭生産　茨城県南地区養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　三共織物㈱ 染　色　小林染工房又は (株) 菱健 制作企画　（株）丸上 意　匠　自社
株式会社桝屋高尾 　代表者名 高尾　弘 京都市北区北野西白梅町七七番地 （担当者：高尾　弘） ℡ 075-464-0500 表示者登録番号 ０３８	帯（袋帯）	72 本	蚕品種　新小石丸 繭生産　群馬県安中市養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 撚　糸　昭和撚糸工業 (株) 染　色　（株）寺川染工場 製　織　自社
株式会社つるや 　代表者名 金子　憲二 埼玉県川越市脇田町 11-2 （担当者：金子憲二） ℡ 049-225-1331 表示者登録番号 ０３９	後染反物	30 反	繭生産　茨城県南地区養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　三共織物（株） 染　色　小林染工房又は (株) 菱健 制作企画　（株）丸上 意　匠　自社

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （提携養蚕農家・企業等）
株式会社越後屋 　代表者名 越永　高士 千葉県市川市本行徳 14-18 （担当者：越永高士） TEL 0473-57-2322 表示者登録番号 ０４０	後染反物	30 反	繭生産　茨城県南地区養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　三共織物（株） 染　色　小林染工房又は (株) 菱健 制作企画　（株）丸上 意　匠　自社
株式会社小倉商店 　代表者名 小倉　敏行 茨城県結城市大字結城 116 番地 （担当者：小倉敏行） TEL 0296-32-2121 表示者登録番号 ０４１	先染反物 （結城紬） 帯（結城紬）	150 反 30 本	蚕品種　朝・日×東・海 繭生産　JA 伊達みらい管内養蚕農家 真綿生産　（有）関根商店 手紬糸生産　自社 染　織　　自社
染織家 柳　崇 東京都世田谷区若林 5-29-19 （担当者：柳　崇) TEL 03-3795-2917 表示者登録番号 ０４２	先染反物 帯	20 反 50 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま２００ 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房
染織家 児玉　京子 沖縄県八重山郡竹富町上原 339 （担当者：児玉京子) TEL 0980-85-6670 表示者登録番号 ０４３	先染反物	5 反	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房
草木染工房山村 　代表者名 山村　多栄子 東京都八王子市長沼町 773 － 5 （担当者：山村多栄子) TEL 042-635-9968 表示者登録番号 ０４４	先染反物 帯	2 反 1 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房
手織り　よおん 　代表者名　長嶺　亨子 沖縄県沖縄市山内 3-12-18 （担当者：長嶺亨子） TEL 098-933-1010 表示者登録番号０４５	先染反物 帯	7 反 12 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房
祝嶺染織研究所 　代表者名 祝嶺　恭子 沖縄県那覇市織名 1-17-15 （担当者：祝嶺恭子） TEL 098-832-2365 表示者登録番号 ０４６	先染反物 帯	10 反 20 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房
株式会社龍工房 　代表者名 福田　隆 東京都中央区日本橋富沢町 4-11 （担当者：福田　隆） TEL 03-3664-2031 表示者登録番号 ０４７	組紐	200 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　色　安田染工所 デザイン・組加工　自社
からん工房 　代表者名 深石　美穂 沖縄県石垣市字川平 1175 （担当者：深石美穂） TEL 0980-88-2459 表示者登録番号 ０４８	先染反物（紋絽） 先染反物（絣） 帯	8 反 14 反 20 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房

純国産絹マーク使用許諾企業名 （表示責任者名）	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 （提携養蚕農家・企業等）
たわた工房 　代表者名 多和田　淑子 沖縄県那覇市松尾 1-2-14 （担当者：多和田淑子） ℡ 098-866-1380 表示者登録番号 ０４９	先染反物 帯	8 反 10 本	企　画　絹の会 蚕品種　ぐんま 200 繭生産　前橋市大胡町養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 染　織　自工房
山音株式会社 　代表者名　山田　純司 京都市中京区三条通室町西入 衣棚町４１番地 （担当者：山田純司） ℡ 075-221-3355 表示者登録番号 ０５０	後染反物 （変三越） （駒絽）	600 反 （400）反 （200）反	繭生産　JA 多野藤岡　管内養蚕農家 製　糸　碓氷製糸農協 製　織　（有）両輪産業又は小熊 機業（有） 染　色　（株）丸亀屋
やまと株式会社 　代表者名　村田　市太郎 京都市下京区高辻通室町西入繁昌町 288 （担当者：村田市太郎） ℡ 075-341-6221 表示者登録番号 ０５１	後染反物	60 反	企　画　（株）深田商店 繭生産　JA たむら、JA すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　河芳織物（有） 染　色　（有）長坂
株式会社御薗織物 　代表者名　加藤　賢一 京都市上京区上立売通浄福寺 東入上ル聖天町 13 （担当者：加藤賢一） ℡ 075-451-0779 表示者登録番号 ０５２	帯 先染反物	300 本 50 反	企　画　（株）深田商店 繭生産　JA たむら、JA すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 染　色　（有）寺井染工 製　織　自社
桜井株式会社 　代表者名　桜井　実 京都市北区衣笠荒見町 5 の 4 （担当者：桜井　実） ℡ 075-461-0246 表示者登録番号 ０５３	帯	120 本	企　画　（株）深田商店 繭生産　JA たむら、JA すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 染　色　にしき染色（株） 製　織　自社
有栖川織物有限会社 　代表者名　澤井　正弘 京都市上京区丸太町通黒門東入 藁屋町 535 番地 34 （担当者：澤井正弘） ℡ 075-823-2676 表示者登録番号 ０５４	帯	120 本	企　画　（株）深田商店 繭生産　JA たむら、JA すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 染　色　小堀染工所 製　織　自社
（生産履歴の追加） 株式会社さが美 　代表者名 小野山　晴夫 横浜市港南区下永谷 6 丁目 2 番 11 号 （担当者：小野山晴夫） ℡ 045-820-6000 表示者登録番号 ０３１	後染反物	500 反	企　画　（株）深田商店 繭生産　JA たむら、JA すかがわ 岩瀬管内養蚕農家 製　糸　松岡（株） 製　織　河芳織物（有） 染　色　（株）橘一

コーディネーター活動の紹介③

養蚕農家との連携を重視した純国産絹製品つくり

－コーディネート活動とその実績－

株式会社　千總　製作部
俵　武　司

今から４年前、生地の担当になって弊社の製品（きもの）は、全部国産の生糸で出来ていると思っておりました。ところが、殆どが輸入生糸で生地を作っていると知り大変な危機感を感じました。まず、自社製品については、食品のように生産履歴が分かるよう国産化することを考えました。

製糸会社と取引を始めるのに約２年かかり、縁があって今の養蚕農家の皆さんと連携して、生産履歴のある絹織物つくりを始めたのが、平成 18 年でした。

JA 全農岩手の阿部参与（当時）の協力を得て、一関市を中心とする農協（JA いわて南等）と養蚕農家との意見交換会を行いました。

「良い繭を提供してほしい。やる気があって、ガッツのある人で参加したいと思う農家の皆さん、この指止まれ」と呼びかけました。

当初、この事業に参加してくれる農家だけでも集めたいというのが本音で、話し合いを始めました。その結果、養蚕農家からは、「農家全員で力を合わせて、いい繭を作るので、一緒にやりたい」との声がでて、今の岩手県全農家参加型の形が出来上がりました。

課題は、今まで以上、品質の良い繭つくりでした。

前述の阿部さんを中心に、農協の養蚕指導者が「養蚕技術の基本を見直し」指導の徹底を図ったマニュアルを作成。これに基づいた飼育を行うこととしました。蚕の飼育や桑栽培に手抜きのない優良な繭の生産体制が出来上がりました。

弊社は、この繭を松岡㈱で生糸に繰糸、加賀グンゼ㈱で白生地にし、その後染めを自社で行い、きもの販売の一貫した体制を構築いたしました。これが、純国産絹織物製作の発端となりました。

農家との議論を踏まえて

養蚕農家の皆さんとは、幾度となく、話し合いを持ちました。

「良い繭つくりには、それなりに経費もかかる」、「求める繭の品質はどのようなものか」など養蚕農家の要望を踏まえ、千總からは、「より一層優良な繭の供給をと要望」し、優良繭には一定額の支援を行うことを農家の皆さんに提案しました。

これを受け、養蚕農家は、優良繭生産マニュアルに基づいた飼育を行い、純国産絹織物となりました。

19 年度には、養蚕農家が京都での研修を行い、自らの繭でできた絹織物を手に取ることが出来、その出来栄えに満足感を得たといいます。

「ぜひ、自分の繭でできたきものを仕立てたい」と農家からの注文も多くありました。

養蚕農家から製糸、機屋、染色加工と一貫した流れを作り、消費者にアピールできる絹織物が出来上がり、これらについては、新聞等マスコミが取り上げています（「岩手日報」平成21年1月1日号など）。

自分で動いてわかった事ですが、優良繭・純国産絹製品を作っていくためには、多くの関係者の協力が必要です。

農協（JA）との連携

養蚕農家との話し合いの席には、農協の担当者はもちろんのこと、出来る限り製糸・機屋さんの同席をお願いしました。今、繭の集荷など養蚕事業は、「農協の業務」として重要なものとなっているようです。優良な繭を出荷していただくため、「稚蚕共同飼育」「蚕及び桑等に関する養蚕農家への技術指導」「繭出荷日時の調整」「共同で行う選除繭の除外作業」等々農協担当者は、毎日忙しく働いています。

一方、農協は、生活物資等の取り扱いも行っています。「きもの発表会」で農協の会議室をお借りして地域の皆様にも知ってもらい、組合長など農協の幹部が、純国産きものを見る機会として重要な場ともなっていると自負しています。

農協の役職員の理解を得ることは、この事業を円滑に行うポイントともいえます。

近い将来には、単に繭・生糸の提供を受け、「純国産絹製品」を作るだけではなく、「岩手県の農産品」を京都市の市民へ提供できる「双方向」の事業展開も検討していく余地があるのではないかと思っております。

「蚕は、農薬に弱い（農薬が使えない）」といいます。このため、蚕を飼育するところの作物は、「安全性が高い」と思っています。今後の

純国産生糸でつくられた「千總」の新作振袖

展開方向の一つと考えています。このため、農協との連携をこれからも強化していきたいと考えています。

活動の場の拡大をめざして

数年かかって、「岩手県の繭」の事業化にたどり着きました。今後は、その地域の拡大を行っていきたいと思っています。

連携する蚕期も春と晩秋にこだわらず、年間の対応を検討していきたいと考えています。また、いくつかの県域の参加もお願いしていきたいと思っています。

このためには、いくつかの課題の解決も必要と認識しています。

「繭の品質の向上」は、その第一の課題と言えるでしょう。特に、夏繭・初秋繭については、最大の懸案事項で養蚕技術者の協力を得たいと

思っています。

選除繭が少ない、揃いの良い均一の繭などの提供をお願いしているところです。悪い繭では、決して良い絹織物ができません。これは、養蚕農家にも認識いただき、努力をお願いしたい点です。

20 年度 1 年間、コーディネート活動を行ってきました。その結果、多くの農家の方々との議論をすることができました。

「うるさい人だな」と思われたかもしれませんが、私の「純国産のきものを作りたい」という熱意は、受け入れてくれたと思っています。

厳しい経済状況のもと、きもの販売は大変な時代に入ってきたと思われます。このため、より一層、蚕種・繭から絹織物業者・染色業者まで一貫した連携を構築して、日本の養蚕・絹織物業（和装産業）守る必要があります。

そのためには、互いに議論を重ね、互いに理解し合い、より良い「純国産絹製品」を作り上げていきたいと思っています。

”純国産絹製振袖「ふりそで夢立花」（千總提供）”

蚕糸絹文化活性化推進事業を拡充・強化

～提携システム推進のため、意欲ある養蚕農家を支援～

財団法人 大日本蚕糸会
蚕糸絹文化活性化推進協議会事務局

財団法人大日本蚕糸会（以下「大日本蚕糸会」といいます。）は、平成３年から、外国からの繭・生糸の輸入増加に対応して、労働コストの低い中国等の追随を許さない、我が国ならではの養蚕技術を確立するため、栽桑と育蚕作業の機械化を図り、多回育等により生産性を大巾にアップした養蚕経営を実現しようとする「先進国型養蚕業推進事業」を、モデル養蚕農家を選定して実施してきました。

平成 18 年には、事業名称を「蚕糸絹文化活性化推進事業」（以下「活性化事業」といいます。）と改め、従前からの事業内容に加えて、絹文化発展継承に関する事業や、蚕糸絹業が連携して付加価値の高い絹製品を作っていくシステムづくりを支援する事業を行ってきました。

そして今回、平成 19 年度からの「蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業」（以下「緊急対策事業」といいます。）に呼応し、次の通り活性化事業の内容を拡充・強化しましたので、その概要を紹介します。

1　今回見直しの内容

（１）活性化事業実施対象農家を、大幅に拡大しました。

これまでは、新しい養蚕技術を普及するためのモデル的な先導的養蚕農家（以下、「先導養蚕農家」といいます。）を大日本蚕糸会が選定し、この先導養蚕農家を活性化事業の実施対象農家としてきましたが、今後とも養蚕に取り組む意欲があるなど一定の要件を満たせば、先導養蚕農家以外の養蚕農家も活性化事業を実施できることとなりました。

具体的には、末尾に掲載した「養蚕新技術を導入する農家や新規養蚕農家等の募集について」に基づいて大日本蚕糸会に応募していただきます。なお、この募集に応募して、事業対象養蚕農家となるためには、養蚕経営概況調査への協力が必要となります。

その手続き等については、大日本蚕糸会のホームページにも載っていますが、更に詳しく知りたい方は大日本蚕糸会の中にある活性化推進事業事務局に問合せしてください。

（２）補助する対象事業を拡大しました。

これまでは、主に新しい養蚕技術を中心に補助してきましたが、今後は稚蚕飼育、中･壮蚕飼育、上族、桑園等に関係する施設･機械や桑園の造成・改良等を幅広く補助の対象としていきます。

また、これまで補助対象としていなかった稚蚕共同飼育所等の地域施設の整備についても補助対象といたしました。

（３）補助率のアップをしました。特に新規養蚕農家等には、高率補助をいたします。

提携システムに参加しようとする蚕糸絹業の関係者への支援を強化するため、1/2 ～ 3/4 だった補助率を、2/3 ～ 4/5 にアップしました。

また、新規養蚕農家（復活養蚕農家を含みます。）、後継者が中心となる養蚕農家及び地域の稚蚕飼育を受託する等養蚕の地域活動を担っている養蚕農家が行う事業については、高率な補助（4/5）を行います。

（４）財団法人全国蚕業技術員養成研修基金協会（以下「研修基金協会」といいます。）の解散に伴い、これまで研修基金協会が実施していた、優良な稚蚕の生産及び良質繭の安定生産に向けた病害虫防除、選繭等技術の高度化を図る養蚕産地技術高度化対策事業を継承し、活性化事業の新規事業「養蚕産地技術指導事業」として実施します。

（５）これまで蚕糸業等に携わっておられたOB等の力を借りて、蚕糸等技術の指導を行うグループづくりを推進することにしており、これらのグループの活動に対して支援することといたしました。

これらのグループには、活性化事業を実施する養蚕農家に対する技術指導、書類作成等への協力をお願いすることにしています。

２　見直し後の事業全体の概要

（１）蚕糸絹文化推進事業

①中央推進事業

大日本蚕糸会が直接実施する事業として、県協議会の指導協力によりまとめられた先導養蚕農家の養蚕成績検討会、先導農家に直接出向いて行う現地指導調査、各県協議会等の行う催事に際しての講師派遣を引き続き行うほか、高度の蚕糸技術を有する専門家から成るワーキンググループの開催と、これらの専門家による製糸工場等への技術指導等の具体的活動を行います。

②都道府県推進事業

先導養蚕農家が所在する都道府県において、行政、試験研究、普及指導関係機関、繭・生糸生産関係者を構成員とした協議会等を設置し、研修会・検討会の開催、情報交流等に必要な活動経費を補助します。

③養蚕経営概況調査事業

活性化事業に参加する養蚕農家すべてを対象に、各県協議会等の指導・協力の下、

養蚕経営概況調査を実施します。

この中から繭生産費を含む調査をお願いする養蚕農家を選定し、中央推進事業として行っている養蚕成績検討会の資料とします。

（2）蚕糸絹文化継承・発展事業

①蚕糸絹利用技術実証事業

ア．蚕糸絹文化関連技術調査開発事業

我が国の蚕糸絹文化の継承・発展のために必要な技術・技能等に関する調査、分析、再現等を行うために必要な経費について補助します。

イ．蚕糸絹文化関連フォーラム等支援事業

蚕糸絹文化に関係するもので、広く市民（消費者）を対象として行う講演会、研修会等に対し補助します。

ウ．蚕糸絹業提携システム構築事業

提携システムを構築しようとするグループに対し、会議、研修・講習、関連技術・機械施設の導入、蚕糸絹業相互現地研修、販路拡大のための活動費等を補助します。

②蚕糸絹生産技術実証事業

ア．先導的養蚕農家等経営安定化事業

上述の（１）の③の養蚕経営概況調査事業に参加でき、かつ緊急対策事業等の提携システムに参加する意志のある養蚕農家であって、都道府県協議会又は大日本蚕糸会が認める技術指導等グループ（以下「県推進協議会等」と呼びます。）が指導・調査に当たることができることが条件になりますが、養蚕経営に意欲のあの農家であれば、養蚕に関係する各種の事業を実施することができます。

イ．地域養蚕関連事業

養蚕地域における稚蚕共同桑園及び稚蚕共同飼育所の関係機械・施設の整備や修理など地域の養蚕を維持する上で必要な事業に対して補助します。

ウ．製糸業等新技術導入事業

製糸、蚕種製造、製織、糸加工・染色等に関係する新技術・関連機械の導入に補助します。

（3）蚕糸・絹業提携支援緊急対策支援事業

緊急対策事業で取り組んだ純国産絹製品づくり条件整備事業（機械・器具の整備）に対し、上乗せ補助します（1/4 補助ですが、緊急対策事業の条件整備事業は、実質3/4 の補助になります。）。

（4）蚕糸絹生産・利用技術指導等事業

①養蚕産地技術指導事業

地域の実情に応じた優良な稚蚕の生産、良質繭の安定生産に向けた病害虫防除、選繭技術等の高度化を進め、地域全体の養蚕技術水準の向上を図るための活動を補助します。

ア．稚蚕期安定飼育技術指導事業

多様な蚕品種の性状に応じた飼育管理による優良な稚蚕の生産を図るため、飼育実務者に対し、稚蚕の安定飼育技術を指導実証する活動経費を補助します。

イ．壮蚕期高位繭生産技術指導事業

高品位な繭の安定生産に向けた病害虫防

除、選繭技術等の高度化を進め、地域全体の養蚕技術水準の向上を図るための活動経費を補助します。

②繭集出荷等指導事業

優良繭の安定生産及び集繭・出荷に向けた病害虫防除、選繭技術等の高度化を進めのための活動経費を補助します。

③技術指導グループ等支援事業

養蚕農家等が行う活性化事業の実施に向けた具体的計画づくりや必要な書類づくり、事業実施後の検証や、技術指導等を実施していただく蚕糸 OB 等から成る指導者のグループ化を推進することにしており、これらのグループが必要とする活動経費等を補助します。

以上、大日本蚕糸会が行う活性化事業の概要をご紹介しましたが、この事業は、大日本蚕糸会の中にある蚕糸・絹業提携センターが実施している緊急対策事業との車の両輪として位置づけ、純国産絹づくりとその消費拡大、更には我が国伝統文化の重要な一つである絹文化の維持発展に寄与していきたいと考えています。

「養蚕新技術を導入する農家や新規養蚕農家等の募集について

平成 20 年 12 月 18 日
財団法人　大日本蚕糸会

養蚕は、我が国の絹文化における原料生産の基盤として重要な位置にありますが、近年、和装需要の減退、輸入絹製品の増大等により繭・生糸の価格が低迷し、養蚕農家、製糸工場等が急速に減少しています。

こうした状況を改善するため、農林水産省と経済産業省の支援の下、蚕糸絹業の生産・流通・販売に関わる事業者が連携して、国産の繭・生糸の特長や希少性を生かした純国産絹製品づくりを推進する「蚕糸･絹業提携支援緊急対策事業（以下「緊急対策事業」といいます。）」が実施されることとなり、財団法人大日本蚕糸会では、緊急対策事業に取り組む推進母体として「蚕糸・絹業提携支援センター」を設置し、蚕糸絹業の維持・発展に努めているところです。

また、緊急対策事業に呼応して、以前より本会が独自に実施してきた、養蚕農家等に対して支援を行う「蚕糸絹文化活性化推進事業（以下「活性化事業」といいます。）」を拡充強化

することとし、その一環として、蚕糸絹業提携システムへの参加を志向する養蚕農家が今後とも安定した養蚕経営を行えるよう、昨今の情勢に応じた支援策を講じていきたいと考えております。

このため、養蚕新技術等の導入実証に取り組む養蚕農家、新規養蚕農家（養蚕復活農家を含みます。）、後継者が主体となって養蚕経営を行う農家、地域養蚕組織活動に取り組む農家等、活性化事業に取り組む養蚕農家を下記により募集致しますので、活性化事業に参加を希望する養蚕農家は、別紙様式１号（略）を県段階の蚕糸絹文化活性化推進協議会に提出してください（書き方、提出先、別添の実施要領（助成事業の内容等）等について質問がありましたら、後述の事務局までご連絡ください。）。

なお、現在、活性化事業に参加している養蚕農家（養蚕経営又は養蚕概況調査農家）は、改めて応募手続きをする必要はありません。

記

1　応募基準

下記基準をすべて満たす養蚕農家とします。

①　今後とも引き続き養蚕経営に取り組む意欲・能力があること。

②　蚕糸絹業提携システムへの参加を志向していること。

③ 養蚕経営概況調査（別紙）への記帳の協力ができること。

④　都府県推進協議会、農協等による養蚕の技術指導が受けられること。

2　養蚕経営概況調査は、原則として平成 20 年度から３年間とします。
その後、前年度末までに財団法人大日本蚕糸会又は当該農家の一方から調査中止の要請がない限りは自動的に調査を継続するものとします。

3　応募期限は、定めないこととします。

応募に関すること、事業に関することの照会・連絡先
財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹文化活性化推進協議会
事務局　安藤俊幸、鈴木　浩
電　話　03-3214-3411・5777
ＦＡＸ 03-3214-5778

蚕糸科学研究所における絹新素材開発の過程

（財）大日本蚕糸会　蚕糸科学研究所
所　長　西出　照雄

絹利用分野の拡大と絹消費増を目指したハイブリッドシルクの開発以来、絹新素材の開発とその利用について様々な検討が行われてきました。この過程で蚕糸科学研究所においても、絹新素材の開発と製品開発を行ってきましたので、これまでに当所で開発してきた絹新素材の概要について紹介します。

ファインシルク

分繊絹糸（繰糸過程で繭糸を膠着させないで集束させた生糸）で、高級アルコール誘導体を用いる低温煮繭と半沈・ケンネル無しで繰糸した生糸を湿潤状態のまま揚返し、パンソフター溶液に浸漬して膨化したのち乾燥する。嵩高性、伸縮性、紡皺性に富み柔軟で膨らみをもち、精練しないで編成できるので、ニット分野で多く用いられたが、織物分野でも本糸の特性を発揮しています。高級呉服用、ニット用。特許1183168。

膨化処理生糸

膨化薬剤（特殊アンモニア系活性剤「シルケロール」）に浸漬（25 ～ 30℃、60 分）し、抱合を和らげて膨化させた生糸で、ファインシルクに近い特徴と用途を持っています。嵩高性を付与する加工方法や布地の風合いの改善、さらには染めむらの解消など織物品質の向上に有効です。また、この膨化処理は生織物にも利用できます。特許1251573。

スーパーハイブリッドシルク（SHS）

既に開発されていたハイブリッドシルクの生産効率・能率の向上を図るとともに、高速繰糸による高繰糸張力を利用して繭糸及びナイロン等の芯糸を引き揃え、絹の感性と化合繊の機能性を具備したスーパーハイブリッドシルク (SHS) を開発しました。自動繰糸機を高速繰糸が可能（300m/min 以上）になるように改良し、さらに装置・部品類を開発しました。本糸の品位的特長は芯糸と繭糸の抱合が良いこと、繭糸のわ節がのばされ生糸の節成績がよいことです。開発当初の製品としてはナイロン SHS によるパンティストッキングが主体でしたが、絹新素材としての評価を得て多様な製

品に利用されるなど、絹の用途拡大に寄与しました。特許 1702691。

なお、絹の感性と化合繊の機能性を具備した各種のスーパーハイブリッドシルクは、以下の製品例に示すように新たな分野へ用途を拡大しました。

（1）シルクロン 60：芯糸に 60 デニールのナイロンを用いた SHS、フォーマルソックス「大和絹」、インナーニット等の商品。

（2）ポリエステル SHS：芯糸にポリエステルを用いた SHS で、僧侶の袈裟用として供給。

（3）キュプラトシルク：芯糸にキュプラを用いた SHS、浴衣、ウエディングドレス、サマーセーター等の製品。

（4）テンセル SHS：テンセルの強さと風合いの特性を活かしたデニムジャケット等の製品。

（5）ポリウレタン SHS：ハードストレッチインナー等の製品。

（6）ウーリーナイロン SHS：ソフトストレッチインナー等の製品。

ネオスパンシルク

精練していない繭糸や繭層を原料として紡績した生絹紡績糸で、本糸を後練でセリシンを除去するとその分、空気と置換され、ソフトで軽く暖かな糸となります。セリシンを多量に含む綿状の繭毛羽は本糸に最も適した素材で繭毛羽の新たな価値を生み出しました。セリシンを含む絹紡糸およびこれを利用した製品や、後練りの織物・編物として新しい感覚の製品開発が行われました。ソックス「絹なり」、ハンカチーフ等の商品化。鮮度維持に効果のあるシルクガーゼ。実用新案 3026461

色繭生糸

笹繭、黄繭など天然色素を活用する技術開発を行い、地域ブランド品の育成に貢献した。天然色素をもつ機能性素材開発研究の端緒となっています。

「いろどり」、「春潮」などのブランドで製品化。特許 2995475。

扁平光沢生糸

繰糸中の生糸を扁平状に加工し、光沢が発生するように光を強く反射する糸条が特徴である。織物では強い光沢を発揮し、紋様などに利用するとその部分が浮き出る効果があります（図 1）。紋織物用素材として用いられていますが、和・洋装の用途に普及しています。

「スーパーフラットシルク」の商標として、また、ネクタイなどにも商品化されています。特許 2936472

図 1　扁平光沢生糸による縫取り紋

無撚シルク

生糸（27/28 × 2）にナイロン（12d, 7f）などの化合繊糸をカバリングします。図２のように、この糸を精練すると両者の熱水収縮率の違いにより、化合繊糸は熱収縮により中に食い込み、膨化した絹糸が外側を覆います。

したがって、外側は絹が、また、芯には化合繊となり嵩高性で、かつスレ・毛羽立ちが起こりにくく、洗濯性が向上するなどの特徴を有し、インナーやレディスウエアに適した素材です。

最近では、27 デニール生糸６本や８本合糸を芯とした太繊度の無撚シルクによるコートやジャケット向けの素材の開発を進

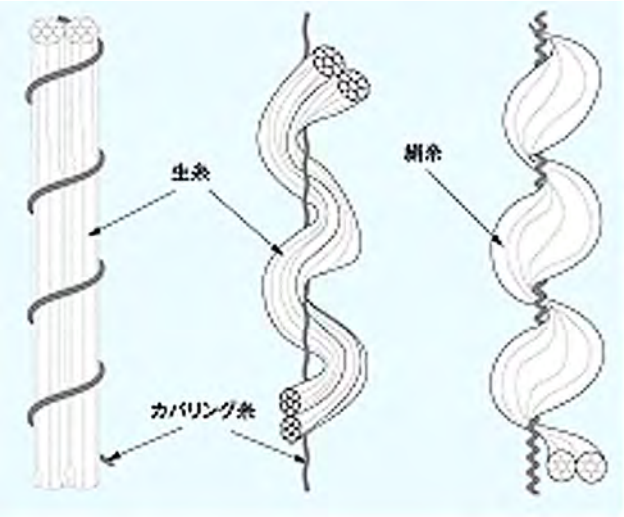

図２　無撚シルクのモデル図

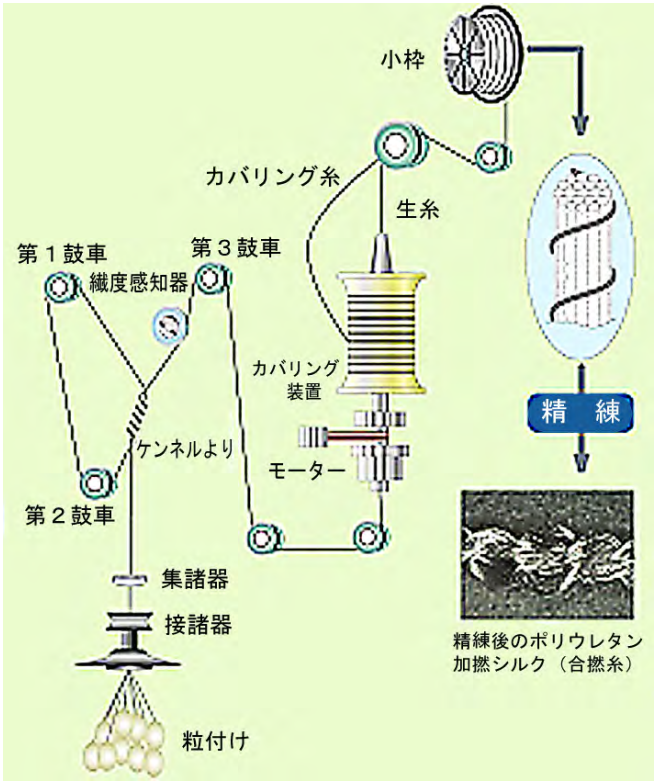

図３　加撚シルク工程図

めています。特許 3418938。

加撚複合糸

繰糸工程中で生糸の周囲を各種の繊維でカバリングしながら加撚を行い、そのまま製編・製織可能な複合糸です（図 3）。

従来ポリウレタンやウーリーナイロンなどの高伸縮性繊維との複合では分繊などの問題がありましたが、この問題は解決され絞揚げが可能となりました。

本糸を 2 本合撚して精練すると、伸縮性をもつスポーツ衣料向け等のニット（図 4）に適した素材として期待されています。また、セリシンの機能を活用した健康衣料分野の製品への活用も考えられています。特許 4068019。

図 4　加撚複合糸製品

太繊度低張力生糸（ふい絹）

繰糸中における張力を極力かけないように繭層内の繭糸クリンプの構造をそのまま残したまま繰枠に巻き上げる。この太繊度の生糸は嵩高性があり、ヤング率が低く柔らかく、染色による色の深みと光沢がでるのが特徴です。

ニットやデニム、帯など洋装や和装分野において商品化を展開中ですが、その利用分野は広いと期待されています。特許 4055169。

以上の他に、農水省・蚕糸試験場が開発したスパンロウシルク（SRS）並びにネットロウシルク（NRS）があります。この素材は繰糸中の繭糸を、自転する網状形成枠に繭糸を左右に振りながら巻き上げ、横から引き出し巻き取る。普通生糸使いの製品に比べ空気を多く含む。集束する直前にヒーターにより一定長に切断しつつ、集束して糸条化すると SRS に、ヒーターを使用せず切断させないと NRS になる。繊維の配列が異方性で繭糸が網状になっているのが特徴で生糸と紡績糸の特徴を併せ持ち、伸縮性と嵩高性に富む。蚕糸科学研究所では、これら糸の生産能率向上のための部品・装置の改良および製品開発を行ってきました。

図 5 に以上述べた素材の開発経過等をまとめて示し、各素材糸の現時点での生産量の規模の違い等を図中の線の太さの違いで表しました。

ここに記しました絹新素材が、今後の新しい絹製品の開拓・利用に役立つことを期待しております。

図 5　シルク新素材の開発及び製造経過

平成 20 年度福島県養蚕振興セミナー開催

～これからが旬・ふくしまの繭～

福島県農林水産部園芸課
主幹兼副課長　目黒　友

福島県の養蚕農家・関係者が一同に

春の便りが届き始める平成 21 年 2 月 13 日 (金)、JA 福島ビル（福島市）を会場に、福島県優良繭生産推進協議会主催、（財）大日本蚕糸会共催による「平成 20 年度養蚕振興セミナー」が開催され、一年ぶりの再会を楽しみにしていた養蚕農家 80 名をはじめ、各 JA の養蚕担当営農指導員、さらに、蚕種製造所、県真綿協会員、県園芸課・農林事務所普及職員、県農業総合センター研究員など、県内各地で養蚕業に携わる総勢 110 名が一同に会しました。

冒頭、宝槻会長（全国農業協同組合連合会福島県本部副本部長）から、平成 20 年度の養蚕農家 104 戸の蚕飼育経過や前年対比 91％となった繭生産量、全国平均を上回る繭代金など、県内養蚕状況の報告とともに、今、養蚕業が転換期にあり、平成 22 年までに新たな提携システムに移行すべく、蚕糸・絹業提携支援センター（以下、「支援センター」）との連携を強化し、県優良繭生産推進協議会と養蚕農家が一体となり努力しようと、主催者あいさつが行われました。

引き続いて今年度の優良団体・生産者表彰式が行われ、団体賞に、新ふくしま農業協同組合養蚕専門部会（佐藤正行部会長）、個人賞は佐藤カツ子さん（福島市）を始め７名が宝槻会長から表彰状を授与されました。

福島県の養蚕農家が元気を出して

続いて、最近の養蚕状況について、全国農業協同組合連合会園芸農産部の筧副審査役から、全国の繭生産実績や先行する蚕糸・絹業提携グループの動き、その特徴と課題、さらに、大日本蚕糸会の養蚕振興対策事業の積極的な活用、全農全国本部の今後の対応について経過報告が行われました。

筧氏からは、先行する提携グループの成果・課題を学びながら、提携先（事業体）を十分に研究し、平成 22 年度までに、福島県の 104 戸をはじめ全国 1,020 戸の養蚕農家の皆さんが新たなシステムに参加できるよう、支援センターとの連携のもと積極的にシステム構築を進めて行くこと、養蚕農家の意識改革と国産繭の生産量確保が重要であること、そして何よりも、福島県の養蚕農家が元気を出して、日本の養蚕と絹文化を支えようとの力強い応援をいただきました。

これからの養蚕業はどうなるんだろう

次に、養蚕農家の皆さんが今、不安と期待を抱いている養蚕業の方向性について、「蚕糸・絹業提携システム事業等の取組みについて」と題して、支援センターの安藤統括システムクリエーター（大日本蚕糸会業務部長）から講演をいただきました。

講演では、今年が国際連合が定める国際天然繊維年であり、国産の繭・生糸・絹や「日本の絹マーク」、純国産絹生産の取組みがマスコミ各社に取り上げられていること、経済不況の影響で全体的な着物消費が減少する中、付加価値の高い純国産品は着実に売れていること、特殊な蚕品種から普通品種によるシステムへの期待などが説明され、参加者のシステムに対する不安を払拭していただきました。

また、支援センターの支援活動や提携システム確立事業の進め方、「日本の絹マーク」の説明のほか、「蚕糸・絹業提携システム事業」（支援センター）による繭代補てん状況や稚蚕共同飼育所への補助事業、さらに、大日本蚕糸会の「養蚕振興対策事業」による個人農家や稚蚕共同飼育所への支援内容などの詳しい説明をいただき、参加者は、川下業界をもっと理解することや、連携して良い繭をつくることの必要性を改めて認識しておりました。

明るく思いやりのある心で良い繭づくり

もうひとつの講演は、養蚕農家の皆さんが楽しみにしていた、本県屈指の昔話の語り部であるラジオ・パーソナリティの森和美さんです。

「笑いと健康」と題して、「笑うことは健康と家庭円満の秘訣」をお話ししていただいた後、方言による見事な語りで心安らぐ昔話を聴かせていただきました。

昔話は、古くから「獅子」、「鷹」、「舟」、「庭」と呼ばれている蚕の「四つの眠」のいわれを語る「おしら様」や、家族への思いやりを笑いで語る「屁たれ嫁っこ」、そして、福島県の偉人「野口英世」の帰郷をひたすら願う母シカの手紙が朗読され、終りに、笑いの絶えない家庭と明るく思いやりのある心で良い繭づくりをしましょうと激励の言葉をいただきました。

そんな森さんの昔話を満面の笑顔で聴いている養蚕農家の皆さん方を見ながら、福島県の養蚕はまだまだ大丈夫だなと感じ、セミナーは閉会しました。

福島県の養蚕業の目指す方向

皆様ご承知のとおり、福島県の蚕糸業は、古くは蚕種製造で栄え、昭和の時代は生糸生産量全国第１位、繭生産量第２位という、繭・生糸の「原料供給」雄県としての地位を誇っておりましたが、他県のような大きな織物産地が少ないため、新たな蚕糸・絹業提携システムづくりについては一歩も二歩も遅れている状況にあります。

このような中、本県では、県優良繭生産推進協議会が主体となって、支援センターとの連携のもと、蚕種製造業者と稚蚕共同飼育所を最川上と位置づけたうえで、県内養蚕農家 104 戸と JA・県が一体となって高品質な繭を安定的に生産・供給し、製糸及び真綿業者それぞれの川下実需者の皆さんとともに付加価値の高い純国産絹製品づくりに参画することで、養蚕経営の収益改善や魅力ある養蚕業を実現していくこととしております。

これからが旬・ふくしまの繭

このような福島県には、今でも、良い繭

づくりの意欲と技術そして養蚕を支える組織があるとともに、ゆたかな「自然」・おいしい「水」・ほんとうの「空」・あたたかな「心」・蚕をいつくしむ「歴史」に育まれた元気な蚕がつくる素晴らしい繭がたくさんあります。

そして、全国の生糸・絹・紬需要者・流通販売関係の皆様方の新たな製品づくりの熱意に、しっかり応えられる意欲ある農家が大勢おりますので、ぜひ、養蚕農家と直接触れ合って、繭づくりの現場を見ていただき、川上・川下双方の共通理解のもと、素晴らしい純国産絹製品づくりを進めていただきたいと考えております。なお、その折には、JA・全農県本部・県園芸課にもその想いをお伝えいただければ幸いと存じます。

今後とも、「これからが旬・ふくしまの繭」をよろしくお願い申し上げます。

第 21 回国際養蚕委員会（ISC）学術大会に参加して

独立行政法人 農業生物資源研究所
生活資材開発ユニット長
髙林　千幸

はじめに

2008 年 11 月 3 日～ 6 日の 4 日間、ギリシャのアテネにて国際養蚕委員会（ISC）の第 21 回学術大会が、ISC とギリシャの農村開発食料省等との主催により開催されました。今回は、日本、インド、タイ、中国、ギリシャ、フランス、イタリア、ルーマニア等 17 か国から 77 名の参加（蚕糸関連研究者、技術者、行政官、企業関係者など）があり、活発な学術交流が行われました。

ICS に現在加盟している国は 13 か国（日本、インド、タイ、インドネシア、フランス、ギリシャ、イラン、ルーマニア、シリア、チュニジア、ブラジル、エジプト、マダカスカル）で、この学術大会は 3 年に一度の加盟国の持ち回りで、蚕糸に関する研究発表や各国の蚕糸情報、意見交換の場として開催されています。前回は 2005 年にインドのカルナタカ州のバンガロールで開催されました。筆者はこれまで開催されたエジプト、ブラジル、タイ、インド等へ ISC の日本代表の執行委員（除インド）として主に参加してきましたが、今回は研究発表セクションの非繊維利用部門の座長及び発表者の立場で参加しました。ISC の役割や活動内容についてあまり知られていませんので、それらを含め、今回の学術大会の概要を報告します。

1．ISC の役割と活動内容

ISC は、1948 年に設立された蚕糸に関する唯一の政府系国際機関で、本部はフランスのリヨンにあります。リヨンは、フランス、パリの南南東に位置し、パリ・リヨン駅から日本の新幹線に当たる TGV で約 2 時間のところにあります。リヨンの絹産業は古く、1466 年にルイ 11 世が絹織物の技術をリヨンに導入したことにより、発展してきたといわれています。1801 年にはジャガード織機が発明されたことにより、以降 1 世紀にわたりリヨンの絹織物産業の黄金期となります。1869 年にはスエズ運河が開通し、日本から大量の生糸が輸入され高級な絹織物が作られることになりました。1959 年にはリヨン市と横浜市は姉妹都市を提携しています。このように日本とリヨンとは古くから深い関係がありました。

ISC の目的は、技術的、科学的、経済的観点から栽桑、蚕種製造、養蚕、製糸など加盟国の蚕糸全般に関わる活動を奨励、促進することで、以下の活動を行っています。

①加盟国間の情報交換
②定期刊行物として蚕糸に関する学術雑誌「Sericologia」の刊行
③３年に一度の学術大会の開催
④研究調査、研究開発、研究協力
⑤ ISC に関係する機関への協力

２．ギリシャの蚕糸業

絹（生糸・絹織物）は、紀元前２～３世紀頃、中国からシルクロードを通じヨーロッパへ伝播し、ギリシャへの養蚕は、養蚕技術全般が最終的にイタリア、フランスへ根付くシルクロードの中継点としてもたらされました。アテネ市内を散策していると大きな桑の街路樹がいたる所にあります。この様子をみてもギリシャでは古くから養蚕業が営まれ、産業として定着していたことを垣間見ることができます（写真１）。

現在のギリシャの蚕糸業について、公表されている統計を表１に示します。2006年の繭生産は100トンで世界の11番目で、日本の繭生産の約２割の量に相当します。生糸生産量は繭生産量に比べて少なく４トンとなっています。ギリシャでは、繭は他の農産物に比べ収益性の高い作物とされ、養蚕業を復活させようとする動きが大きくなっています。現在、養蚕業を行っている隣国とヨーロッパ養蚕連盟を結成し、ギリシャがヨーロッパで最大の繭生産国ということもあって、ヨーロッパでのリーダーシップ的な存在となっています。

今回の ISC 大会はアテネ市内で行われたため、ギリシャの養蚕、製糸の現場を見ることはできませんでしたが、ギリシャの北部、中部にはそれぞれ製糸工場があり、また蚕種研究所では自国や隣国に適する蚕品種の開発と製造を行っています。

３．ISC 学術大会の概要

今大会は 11/3 ～ 6 までの４日間に亘って、アテネ市の郊外でエーゲ海のほとりにあるギリシャ国立銀行教育センターで行わ

写真１　アテネ市内の桑並木

写真２　会場となったギリシャ国立銀行教育センター

表１　主要な養蚕国の繭・生糸生産 (2006 年）シルクレポートより

国名	繭生産（ﾄﾝ）	生糸生産（ﾄﾝ）
中国	739,715	93,105
インド	135,000	16,525
ベトナム	21,000	2,250
ウズベキスタン	20,000	1,100
タイ	10,100	1,080
ブラジル	8,051	1,387
イラン　*	2,543	395
インドネシア　**	691	91
日本	505	119
トルコ	350	25
ギリシャ	100	4
ブルガリア	65	5
フィリピン	16	1.6

*　2005 年　**2002 年

れました（写真２）。

１）開会式

主催者側の開会挨拶に続いてルイ・パスツール賞の授与が行われました（写真３）。ルイ・パスツールは、近代微生物学の創始者で、1860 年代後半に蚕の微粒子病の防除法を確立したことでよく知られています。パスツールを記念したこの栄誉ある賞は、科学・技術・行政上の観点から、蚕糸業の進歩と発展に著しく貢献した加盟国の個人を対象としています。

今回は、日本から田村俊樹氏（(独) 農業生物資源研究所遺伝子組換えカイコ研究センター長）とインドの Dr.Dadin S.B.（現インド中央蚕糸局蚕種研究所長）の２名が受賞されました。田村氏は、2000 年に世界に先駆けて遺伝子組換えカイコの開発に成功し、オワンクラゲやサンゴ等の蛍光タンパク遺伝子や細胞接着性やコラーゲン増殖性の良いタンパク遺伝子を導入した繭の開発が認めらました。インドの Dr.Dadin は、日本の JICA（(独）国際協力機構）が 1991 年から 2007 年までの 16 年間に亘って行った「インド二化性養蚕普及強化計画」の事業の一環で、インド側で養蚕技術の開発・普及に大きな貢献をしたこと等に対して送られました。

写真３　ルイ・パスツール賞受賞式

２）研究発表の概要

今学術大会での研究発表は、従来の６つのセクションに、今回から新たに１つのセクション（非繊維利用部門）が加わり、口頭発表 60 件、ポスター発表 37 件、計 97

件の発表がありました（写真４）。以下、その概要を紹介します。

①桑部門（５課題）

タイでは桑の実を用いフルーツジュース、ワイン、ジャム等の生産を行い、多く市販されていますが、桑の実を効率的に採るために、桑の木の植え方や仕立ての仕方が実の収量にどのように影響を及ぼすかについての研究発表がありました。

インドからは有機肥料のみで桑を栽培するオーガニック養蚕について、化学肥料を使う場合に比べて桑の収量が増加したとの発表がありました。

②蚕部門（８課題）

この部門は、蚕飼育、生理、蚕育種、蚕病、蚕種製造、遺伝資源などの分野で、座長は（独）農業生物資源研究所　昆虫科学研究領域長竹田　敏氏が務めました。

ブルガリアの蚕糸試験場の研究者から、蚕の日本種と中国種を用い二元交雑、四元交雑を行い、繰糸成績との関連からブルガリアに適する品種育成の発表がありました。

中国からは、カイコクローンに関する研究発表がありました。クローンは雄雌両性の関与しない無性生殖では同じ遺伝子が受け継がれるため、有性生殖の場合のように偶然の組み合わせによる多様性はなく、同じ親から産生された個体同志は総て同じ遺伝子を持つクローンとなります。基礎研究の段階とは言え、今後実用化に向けた研究が期待されます。

③蚕バコロジー部門（６課題）

バコロジーは造語で、蚕をモデル生物として位置づけ、遺伝学、生理学、生化学、遺伝子工学、分子生物学を研究分野としています。

写真４　研究発表風景

インド、タイ、イラン、フランス、田村俊樹氏、今西重雄氏（(独）農業生物資源研究所）より遺伝子組換えカイコ関連についての発表がありました。

④野蚕部門（11 課題）

11 課題、総てインドからの報告で、タサール蚕、エリ蚕、ムガ蚕の蚕種、育種、生産性等に関するものでした。タサール蚕はインド中部・東北部に生息し、エリ蚕やムガ蚕はインドのアッサム地方を原産地としています。それぞれの野蚕について、その生糸生産量の推移や育成に関しての発表が行われました。インドは野蚕業が盛んなだけでなく、野蚕に関する大学の学部、研究機関も充実しており、今後益々研究開発や製品の開発が期待されます。

⑤製糸・織物・副蚕部門（９課題）

野蚕に関連して、インドよりムガサンのアルカリ溶液による煮繭方法の検討や、エリサン糸の草木染めによる染色方法、タ

サールサンの絹紡糸を芯糸としてその周り綿、麻、ポリエステルをカバリングした糸による織物特性とドレス、ブラウス等の既製服、カーペットなど製品化ににについての報告がありました。また、インドで現在問題になっている多化性繭の再繰切断原因についての研究発表があり、大変興味深い内容でした。

タイからは、生糸検査成績の全国一括情報収集方法、製糸工場のグループ化による生糸生産性の向上方法、生糸成績の向上方法についての取組みについて報告がありました。

⑥経済部門（13 課題）

この部門ではルーマニア、イラン、インド、タイ、ギリシャ、日本、エジプト、ブラジルから蚕糸業の現状、問題点、展望などについての報告がありました。

日本からは ISC の執行委員の（独）農業生物資源研究所研究主幹町井博明氏より日本の蚕糸業の現状、現在行われている研究の現状及び蚕糸研究の展望等についての報告がありました。最近の日本での研究として、蛍光を発する組換えカイコ繭によるドレスやニット製品への製品化、インテリア製品への応用等については多くの質問が寄せられ、注目を集めました（写真５）。

⑦非繊維部門（８課題）

タイから、桑の品種とその葉に含まれるポリフェノールの抗酸化性について、ルーマニアからは、桑の根に含まれる薬効成分やフィブロイン膜の細胞増殖性についての報告がありました。

インドからは、ムガ蚕の蛹の利用方法として魚の餌としての活用についての報告や、桑の木と綿の木の枝を材料として作製したボードについての新規用途開発についての報告がありました。資源の有効利用として実用化が期待されています。

筆者は、繭糸による人工血管用基材の作製方法、ラット等への移植試験を行った結果について報告しました。絹の機能性を生かした新たな用途として注目され、多くの質問を頂きました。

写真５

３）閉会式

今回の７セクションの座長がそれぞれ自身の持ち分の課題について、まとめと評価が行われました（写真６）。その後主催者側の挨拶により閉会となりました。

以上、今回の ISC 学術大会の概要に報告致しましたが、会場の展示コーナーでは、インド、タイからの繭、織物等の展示が行われ、実際の原料や製品を見ることで、研究内容がより一層深まりました（写真７）。

また、展示コーナーでは地元の繭工芸作家による繭花等の展示がありました。彼はこれまで 450 以上の作品を製作してきたとのことですが、どの作品も見応えのあるものでした（写真８）。

おわりに

ギリシャでの養蚕、製糸は北部、中部地方で行われているため、今回見学することが出来ず残念でしたが、これから意欲的に蚕糸業を発展させていきたいという熱意を、この ISC 学術大会を見事に成功させたことから伺い知ることができました。

今回、新しく設けられた非繊維部門においても興味ある研究発表がありましたが、今後はカイコのゲノム情報解析や遺伝子機能解析、シルク新素材の開発、シルクの機能性を利用した医療素材への開発研究等が発展するものと思われます。３年後の ISC 学術大会はイランでの開催が予定されていますが、そこで更に進展した内容の発表が行われることが期待されます。

写真６　閉会式での座長によるまとめ

写真７　繭・織物の展示

写真８　繭工芸の展示

国内産地情報

絹織物産地の概況（１月）

社会全般の不景気から絹業界も厳しい状況が続く

＜原糸＞

市況の低下から、この先の不安もあって原糸の手当ては控えられている。輸入原料糸の値下げ、円高での割安感も出ているが、反応は鈍い。中国の春節明けの市況の動向が気にかかる。いずれにしても減産のため、既契約の消化が主流となり、新規の契約も補充買に終始し、先約は進展難であった。

＜白生地＞

・丹後の縮緬生産は、前年比、無地 70％、紋生地 72％の生産であった。集散地の在庫調整の宣伝が大きく新企画品は閑散であり、縮小に歯止め感がない。
・長浜の生産は、前年比 74％と昨年を大きく下回り、集散地からの注文が鈍く、一段と冷え込んで閑散であった。
・五泉の生産量は、前年比 13% の減産となり、全体に荷動きは悪かった。
・福島は、羽二重、スカーフ地ともに操業状況が落ち、特に和装関係が厳しい。
・福井は、広幅羽二重は指定品のみの受注生産、小幅羽二重は輸入品との価格競争で悪化している。
・岐阜は、特殊織物主体で見込みも含めた操業で現状維持に努めている。
・群馬・埼玉は、生産調整を続行中であるが、市況の不振から在庫も捌ききれず増大している状況である。

＜先染織物＞

・西陣の帯は、総じて 1 万円以下の値頃のハデ物帯の注文が一部の機業であり品薄である。全般的に厳しく、生産は控えられている。
・博多は、紋系の一部を除き、全般的に問屋の注文が少なくて出荷減となっているため在庫は若干増えつつある。
・米沢は、呉服はシーズン物の袴や女紬着尺、オシャレ帯などに若干の荷動きがある。
・山梨は、ネクタイは売れていない、したがって生産量は少ない。服地は全般的に生産量は前年並み。
・西陣のネクタイは、百貨店、デパート向けの春物のフォローが少し入ったメーカーのみに動きがあった。しかし、全般的には取扱量が少なく機屋は苦戦している。早期の景気の回復に期待している。

＊ (社) 日本生糸問屋協会月報 20.12.12 第 718 号による。

海外シルク情報

中国

中国、フランスと共同で新型煮繭設備の開発・導入構想まとまる

中国紡織報によれば、浙江省検験検疫局糸類検査センター、浙江理工大学、嘉興イデア有限公司（イタリアのミェリー社と中国との合弁の絹撚糸工場）及びフランスのシャネル社は過日 (08 年 11 月初旬)、共同で新型煮繭機の開発・導入するプロジェクトを立ち上げることで調印式を行った。

前記各社は、この新型煮繭機を中国杭州紡織機械有限公司（中国の著名繰糸機機械メーカー、代表者 葉 文氏）によって試作・開発することでまとまっている。

このプロジェクトには、世界的なファションブランドで有名なシャネル社が資金を拠出することになっており、技術的には日本で開発された煮繭技術 (特に大中節、小節発生を防止する効能をもつ) を導入することとしている。当初にシャネル社は 20 万ドルを拠出して、日本のパテントの有効期間が既に過ぎているものの、日本から図案・企画及び当該煮繭機を購入することから開発がスタートし、その後、約 95 万ドルを投資し、18 ヶ月の期間で試作研究と製糸工場での本格的な導入完成を見込んでいる。このことにより飛躍的に中国生糸の品質向上を図ることとし、生糸品質に厳しい欧州向け等の更なる輸出競争力の強化を狙っている。

このことは、中国では生糸品質向上対策としての製糸技術の改善の中で工程別にみるならば、製糸工場への自動繰糸機の導入は近年順調に進み、現在、全体の 9 割を超えており、当面、繰糸工程の改善は一段落し、次の対策として煮繭工程の画期的な開発・改善に取り組んでいる姿勢がうかがえる。

中国の繭生産量久し振りに減産へ

2004 年以降、中国ではシルク政策の東桑西移戦略が本格化してここ数年繭生産の増産体制が続いてきた。中でも広西壮族自治区の繭生産は、最近 10 年間で 12 倍以上に激増し中国繭生産の約 25％を占めるようになり中国繭増産を引っ張ってきた。しかし、昨年 (2008 年) の繭生産状況は久しぶりに減産になった模様である。

昨年末発表になった中国紡織報によれば、春蚕期において南方を中心とした低温・氷雪害の自然災害により最大の主産地広西壮族自治区は大幅な減産になり、その後の夏秋蚕期に至って大幅な繭生産費の増加と各地の異常気象等から、速報値であるが、年間繭生産量は約 69 万トンとなり、これは対前年比 12％以上の減産で約 4 年ぶりに減産になっている。

全国の桑園面積は前年に比べそれほどの変化はなかったものの、農家からの生繭買付平均価格は 802 元／ 50kg ＝ 16.04 元／ kg となり、対前年比 10％以上減少となり、これが農家

の養蚕に対する意欲を低下させ減産に拍車をかけることとなった。また、初秋から晩秋にかけては、優良繭生産地の江蘇、浙江省では異常な高温・暑さが続き、繭品質に悪影響を与え、解じょ率の低下から製糸工場での高品質生糸生産に少なからず支障をもたらしているとのことである。

＊(社)日本生糸問屋協会月報 21.1.15 第 717 号及び 21.2.12 第 718 号による。

シルクの豆辞典（20）

桑　の　薬　効　（3）

―　桑樹は天魔も避ける霊木　―

信州大学
名誉教授　嶋崎　昭典

大宝令、養老令には陰陽道を司る役所、陰陽寮（おんようのつかさ）がおかれていました。最近、陰陽師安倍清明（921－1005年）が話題になったように、科学万能のいまでも未知への不安や怖れを感じることがあります。栄西の頃は、国が乱れ病気が蔓延するのはすべて妖怪ものの怪、魑魅魍魎（ちみもうりょう）の仕業と信じられ、妖怪を退散させる加持祈祷の行われていた時代でした。そうした昔から、桑樹は天魔もこれを避ける霊木、と信じられていました。ましてや、その手先の魑魅魍魎などは桑樹のそばへ近づくことなどできませんでした。桑樹は、一高寮歌『嗚呼玉杯に花うけて』の「破邪の剣を抜き持ちて、舳に立ちて我よべば、魑魅魍魎も影ひそめ、金波銀波の海静か」の破邪の剣でした。

13. 桑抹茶の作り方と飲み方

『喫茶養生記』は「４月（陰暦）の初めに桑の葉を摘み日蔭干にします。９月（陰暦）になり葉の三分の二が落ちたところで残った三分の一の葉を摘み日蔭干しにします。(これを神仙茶と言いますが) 干した葉は茶葉と同じように搗（つ）いて粉末にした後空気に当てないよう保管します。服用は４月と９月の葉を秤で等分に計り一緒に合わせて服用します。量は、１寸四方の匙２、３杯に沸騰させた白湯を注ぎます。少し濃い目にたてるのがいいです」と述べています。桑茶は風邪や百日咳、高血圧の予防や滋養強壮剤として効用があるといっています。

14. 桑の実の服用

桑の実は苺に似ていることから桑苺とも言われ、熟すると紫紅色になり甘みがあり美味しいです。唐の陳臓器は、「桑椹（そうじん）（桑の実)、五臓、関節を利し血気を通ず。多く採取し曝（さら）し、末（粉）に搗き蜜を和して丸とし毎日60丸を復すれば、白髪黒く変じ老いず」と伝えています。栄西も『喫茶養生記』で「桑の実が熟した時、日に乾かして粉末にした後、蜂蜜を混ぜ丸めて桐の実ぐらいの大きさの丸薬とし保管します。空腹の時これを40丸お酒で服用します。毎日続けると体が爽快になり、病気にかかりません」と伝えています。また「本経の

条中に桑の用途甚だ多いが、独り鳥椹（ちょうじん、桑の実）を遺す。桑の精英尽くこの中にあり。（略）その汁を膏（ジャム）となし。食後また就寝時沸湯を注ぎ，服すれば口渇を治し、精神を生じ、小腸の熱を治す。寇宗奭」と桑の実の薬効を述べています。

桑の実は「赤とんぼ」の歌にも歌われているように、そのまま生で食べても美味しいですが、『本朝食鑑』には「桑の椹の黒く熟したる者一升を用い、好酒一升にいれる。一月を経て爛を研ぎ酒を漉す。氷糖末２、３斤をいれ、拌均し、三五日を経てこれを飲す」と桑の実の酒の造り方を示し、動脈硬化や高血圧さらに糖尿病に良いとしるしています。

内藤風虎の『俳諧集　桜川』（1674 年）には、林元作として

湯の山や　中風よさらば　桑いちご

の句があります。昔から、桑の実は生食によく、ジャムや丸薬、薬酒など色々と形を変え、夫々の効用を発揮し、特に中風によく効くとされていたのでした。

15. 桑木を服す

『喫茶養生記』にはまた、「桑の木を切るときでる、おが屑の細かいものを五指で摘み、美酒に投じてこれを飲む。女人の血気よくこれを治す。身中、腹中の病をなおす。これ仙術なり。常に服すれば長寿無病をえる」とあります。

16. 桑樹は天魔も避ける霊木

この世は二人の帝王が支配しています。昼の帝王が天子で、夜の帝王が魑魅魍魎を支配している天魔です。糖尿、中風に始まる諸病が総て桑の木で治るのは、桑樹が過去の諸仏成道の霊木で、桑樹を乳木として護摩をたくと魑魅魍魎は退却逃散します。桑樹は天魔も避ける霊木なのです。だから、桑木は万病の薬になるのです。もし人がこの木を念珠にし、杖や枕にして身につけると、天魔はその人を避けます。ましてやその手下の魑魅など近寄ることはできません。と栄西は『喫茶養生記』の巻の下でのべています。そうした桑樹信仰がもとになって、江戸時代ごろまでは、桑の木が生活のいろいろの面に使われてきました。

（1）桑の杖

中風にかかると歩くのが不自由になります。その身を守る最上の杖は桑杖でした。浄瑠璃『鬼一法眼三略巻二』には、

いとど老木の身の上に　さ
いつ頃より中風の　病も重き桑の杖
縋りよろほう片手業。

があります。また俳諧『笈日記（下）』には、芭蕉の

秋風に　折れて悲しき　桑の杖。

があります。冬の到来の近いことを告げる、肌を刺す冷たい秋風。頼りとする桑の

杖にも見放された老いた身の悲しさが伝わってきます。

（2）桑の枕

桑樹の箱枕造りがおこなわれました。「桑の枕で休みますと、魑魅魍魎が近づくことが出来ないので頭痛がおきず、悪夢を見ることもなく、安眠でき、その効能はあまりにも多くて列記できません　」と栄西は記しています。

（3）桑の箸

桑の箸もまた中風の予防に良いといわれてきました。雑俳『柳多留拾遺』（1801 年）には、

遠くおもんばかって　桑の箸で食う。

があり、また浄瑠璃『日本振袖始』には、

某（それがし）は中風の神
名は半身と申す者
桑の箸さえ左の手
口を歪めて入れにける。

があります。その他桑の湯呑み椀などは今でも土産店などに見かけることがあります。

こうしたお話は迷信と言われがちですが、桑樹から発毛成分が抽出され、昭和25､6 年ごろはマルベリーヘアートニック（図）が農林省蚕糸試験場の購買部で購入できました。最近では桑根中に含まれる「5.7-Dihydroxy Chromone」が血圧降下作用を示すといった報告など目にします。専門分野の皆さんが桑の持つ不思議さを科学的に解明して下されるのを楽しみにしています。

図　桑の抽出精分配合のクラブ　マルベリー
ヘアトニック
（中山太陽堂謹製　蚕糸試験場所蔵）

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
染・織で綾なす 「日本 の絹展」 ～純国産絹製品の展示・販売～	国産の繭・生糸の特徴、希少性を活かした振袖、訪問着等の純国産絹製品を展示し、広くＰＲすることによって日本の蚕糸・絹業の活性化を図るとともに純国産絹マークの消費者への普及を推進します。 (入場無料)	平成21年3月4日(水)～ 3月10日(火)	会場:高島屋大阪店6F きもの売り場 主催:(社)日本絹業協会 後援:(財)大日本蚕糸会 (社)日本絹人繊織物工業会
第5回日本絹の里工芸展	より多くの方々に絹の多様な素晴らしさを知っていただくため、絹や繭などの素材を活かした染めや織り繭クラフト組みひもなどの蚕糸絹業関係の工芸作品を工芸作家と友の会会員から募集し、一堂に展示します。 【関連行事】 ○「友の会」フリーマーケット 3月28日(土)・29日(日)10時から午後4時 ○絹・繭クラフト無料体験 3月15日(日)、4月3日(金)午前、午後 定員各回15名(先着順)、参加費無料 ＊観覧料は必要 観覧料：通常期間、一般200円、大高生100円 企画展開催期間、一般400円、大高生250円 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその付添1名様無料	平成21年3月14日(土)～ 4月13日(月) (火曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 群馬県県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinunosato.or.jp
真綿の講習会	次の世代に真綿づくりの大切な技術を伝えて行くために(財)真綿協会では真綿づくりの講習会を常設しています。ご希望の方はご参加ください。 ●申込方法 希望月日、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記して下記の申込先に希望日の２ヶ月前までにハガキでお申し込みください。 ●募集人数 各回5名様(機械紡ぎは3名様) ●講習料 無料(材料費千円がかかることがあります。) ●申込先 (財)真綿協会「まわたスポット」係 〒113-0031東京都文京区根津1-16-9 タウンシップ文京根津1102	平成21年スケジュール 3月5日(木)手紬糸 12日(木)手紬糸 19日(木)手紬糸 26日(木)真綿の小物作り	会場:〒113-0031 東京都文京区根津1-16-9 タウンシップ文京根津904 「まわたスポット」 主催:(財)真綿協会 お問合わせ Tel:03-5814-4881
まゆクラフト作品展	全国から広く、まゆの自然な造形美、まゆの質感を活かした優れたまゆクラフト作品を募集、展示をします。まゆクラフトの製作技術の向上を図ると共に、全国同好のまゆクラフト製作者の「集いの場」となることを目的とします。 ●作品募集期間 平成21年3月1日から3月10日まで ●審査日 平成21年3月12日 ●審査発表日(授賞式) 平成21年4月25日(土)右記の会場にて 入館料：大人300円(200円)、子供100円(50円) ( )内は、団体割引(20人以上)の料金	作品展開催期間 平成21年4月25日(土)～6月14日(日)まで AM9:00～PM4:30 (水曜日休館)	会場・主催・お問合わせ 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ケ根市東伊那482 Tel:0265-82-8381 Fax:0265-82-8380 後援: 中央蚕糸協会、(財)大日本蚕糸会、(社)日本絹業協会、(社)日本生糸問屋協会、全国農業協同組合連合会
絹の郷シンポジゥム&現地見学会 ～純国産絹製品づくりによる新しい価値の創造～	蚕糸・絹業提携グループによる純国産絹製品づくりを推進するとともに養蚕現場や群馬の絹に理解を深めることを目的に「絹の郷シンポジゥム&現地見学会」を開催します。 【1日目】 ＜シンポジュム＞14:00～17:00 テーマ:差別化できる純国産絹製品の製造・販売 ＜交流会＞17:30～ 【2日目】8:00～15:00 養蚕・製糸現場等の見学 ＊現地見学会後、群馬の絹を原料に純国産絹製品づくりを目指す方を対象に「蚕糸・絹業提携グループ形成情報交換会」を開催 15:30～17:30 ◆参加費10,000円(交流会と見学会費・昼食代等含む) ◆定員90名	平成21年5月29日(金)～ 30日(土)	会場 群馬県庁ビジターセンター (群馬県前橋市大手町1-1-1) 主催(予定) 群馬県、(財)大日本蚕糸会 碓氷製糸農業業同組合 お問い合わせ 群馬県農政部蚕糸園芸課 Tel:027-226-3092

登録コーディネーター一覧

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧　　平成 21 年 2 月 15 日現在

登録番号	氏　名	所属・役職名
１９－００１	島　田　　俊　弘	中央蚕糸協会顧問
１９－００２	西　　文　秀	(社) 日本絹業協会専務理事
１９－００３	中　尾　　敏　明	(社) 日本生糸問屋協会専務理事
１９－００４	道　鎮　　孝　雄	(社) 日本絹業協会事業部長
１９－００５	筧　　文　平	全国農業協同組合連合会副審査役
１９－００６	清　水　　重　人	（財）大日本蚕糸会蚕糸科学研究所上席研究員
１９－００７	田　中　　幸　夫	（財）大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
１９－００８	代　田　　丈　志	（財）大日本蚕糸会蚕業技術研究所上席研究員
１９－０１０	遠　田　　寿　之	松岡株式会社監査役
１９－０１１	渋　谷　　健　治	松岡株式会社シルク事業部課長
１９－０１２	佐　藤　　信　行	松岡株式会社常務取締役
１９－０１３	小板橋　　広　行	碓氷製糸農業協同組合参事
１９－０１４	今　村　　幸　文	碓氷製糸農業協同組合製造部長
１９－０１５	萩　原　　和　憲	碓氷製糸農業協同組合総務主任
１９－０１６	宮　坂　　照　彦	株式会社宮坂製糸所代表取締役
１９－０１７	高　橋　　耕　一	株式会社宮坂製糸所専務取締役
１９－０１８	服　部　　芳　和	有限会社織道楽塩野屋代表
１９－０１９	木　下　　幸太郎	株式会社マルシバ代表取締役社長
１９－０２１	門　倉　　重　行	門倉メリヤス株式会社代表取締役
１９－０２２	川　瀬　　久　弥	樋口株式会社工場長
１９－０２３	福　永　　吉　穂	江一株式会社原糸事業部長
２０－００１	笹　口　　晴　美	有限会社ミラノリブ代表取締役
２０－００２	薦　田　　智　昌	ロード・ニジュウイチ株式会社代表取締役
２０－００３	西　澤　　厚　男	中央蚕糸協会専務理事
２０－００４	佐　藤　　幸　香	「香染」工房主宰
２０－００５	土　井　　芳　文	絹小沢株式会社業務推進役
２０－００６	石　田　　克　己	二十一世紀の絹を考える会世話人代表
２０－００７	深　田　　祥　二	株式会社深田商店専務取締役
２０－００８	兵　頭　　眞　通	愛媛蚕種株式会社代表取締役
２０－００９	草　間　　健　一	株式会社草間商会代表取締役
２０－０１０	前　田　　進	有限会社スリーエスプランニング代表取締役
２０－０１１	星　野　　伸　男	新増澤工業株式会社代表取締役
２０－０１２	昆　野　　和　夫	前いわい東農業協同組合養蚕農家指導担当
２０－０１３	阿　部　　末　男	岩手県養蚕活性化推進協議会代表
２０－０１４	俵　　武　司	株式会社千總副部長
２０－０１５	原　田　　尹　文	有限会社ハラダ代表取締役
２０－０１６	西　尾　　仁　志	有限会社西尾呉服店代表取締役
２０－０１７	山　根　　敏　男	松村株式会社繊維原料部部門長
２０－０１８	都　木　　裕一郎	ニッケン通商株式会社生糸販売担当責任者
２０－０１９	伊　藤　　公　一	株式会社伊と幸代表取締役社長
２０－０２０	北　川　　幸	株式会社伊と幸取締役社長室長
２０－０２１	本　橋　　伸　夫	株式会社伊と幸取締役営業本部長
２０－０２２	宮　　忠　光	株式会社伊と幸取締役副部長
２０－０２４	野　中　　康　雄	株式会社伊と幸和装部次長
２０－０２５	亀　井　　修　一	株式会社伊と幸営業部
２０－０２６	宮　沢　　巳起代	有限会社塩野屋東京事務所スタッフ
２０－０２７	東　　宣　江	群馬県蚕糸館主宰

（注）標記名簿は公表を了承された方のみ掲載しております。

蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業コーディネーター登録者一覧　　平成 21 年 2 月 15 日現在

登録番号	氏　名	所属・役職名
２０－０２８	松　澤　清　典	松澤製糸所
２０－０２９	渡　邊　英　夫	ネオシルク株式会社足利支店営業部長
２０－０３０	金　井　史　郎	東北撚糸株式会社代表取締役社長
２０－０３１	中　谷　比佐子	株式会社秋櫻舎代表取締役社長
２０－０３２	北　丸　豊	豊栄繊維株式会社代表取締役社長
２０－０３３	松　本　信　孝	有限会社ハック代表取締役
２０－０３５	片　山　政　明	山形県養蚕産地推進員
２０－０３７	角　谷　美和子	ハクビ京都きもの学院学院長
２０－０３８	原　田　晶　三	アンファンテリブル代表
２０－０３９	福　田　隆	株式会社龍工房代表取締役
２０－０４０	清　水　武　彦	有限会社シンセイ（信州繭ブランド織物振興会会長）
２０－０４１	梅　田　幸　平	有限会社幸和代表取締役
２０－０４２	大　嶋　啓　子	株式会社 AWA － S 取締役
２０－０４４	小此木　エツ子	多摩シルクライフ２１研究会代表
２０－０４５	境　京　子	多摩シルクライフ２１研究会
２０－０４６	藤　井　浩　一	藤井絞株式会社取締役部長
２０－０４７	松　井　慎一郎	加賀グンゼ株式会社代表取締役
２０－０４８	大　野　章	勝山織物株式会社
２０－０４９	勝　山　健　史	勝山織物株式会社専務取締役
２０－０５０	福　地　圭　一	丸八生糸株式会社
２０－０５１	舞　鶴　一　雄	株式会社西陣まいづる代表取締役社長
２０－０５２	旭　利　彦	ロード・ニジュウイチ株式会社
２０－０５３	内　藤　吉　雄	艶金染工株式会社ＦＰ事業部（織物自販部）
２０－０５４	前　田　勝　臣	株式会社日本クリエイティブセンター代表取締役
２０－０５５	堀　内　新　也	農業、地域（繭）マイスター
２０－０５６	林　太　一	昭和撚糸工業株式会社
２０－０５７	中　野　豊	長崎絹業探究所製作担当
２０－０５８	永　岩　則　子	長崎絹業探究所所長
２０－０５９	宇　野　浩　嗣	京丹後市商工観光部丹後の魅力綜合振興課主任
２０－０６０	中　尾　浩　祥	株式会社丸万中尾取締役
２０－０６１	小　口　和　興	株式会社帛撰代表取締役
２０－０６２	吉　川　幸四郎	有限会社吉川商事代表取締役
２０－０６３	大　竹　史　朗	有限会社大竹商店代表取締役
２０－０６４	加　藤　洋　次	株式会社加藤技術士事務所所長
２０－０６５	田　中　裕　司	株式会社布四季庵ヨネオリ代表取締役
２０－０６６	黒　田　秀　樹	株式会社伊と幸和装部次長
２０－０６７	秋　山　眞　和	綾の手紬染織工房主宰
２０－０６８	山　口　治　之	丹波生糸株式会社代表取締役
２０－０６９	藤　井　美登利	川越むかし工房代表
２０－０７０	藪　内　猛　之	株式会社ヤブウチ代表取締役
２０－０７１	竹　下　和　利	有限会社寿光織本舗取締役社長
２０－０７２	中　島　洋　一	玉川大学講師
２０－０７３	渡　辺　健　次	渡文株式会社代表取締役専務
２０－０７４	佐々木　祥　一	株式会社川島織物セルコン
２０－０７５	高　橋　弘　直	大門屋店主
２０－０７６	田　中　隆	田中種株式会社代表取締役
２０－０７７	堂　本　正	田中種株式会社営業部長
２０－０７８	藪　垣　茂　仁	田中種株式会社仕入担当

蚕糸関係博物館一覧

名　　称	〒	住　　所	電　話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 － 87	0238-23-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 － 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館 “紫”（ゆかり）	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館（(財）日本きもの文化協会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ～ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鑓水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静市市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町　グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民族館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 － 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設（結城市伝統工芸館）	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「橡」（つるばみ）	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2（大杉公園隣り）	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇（田勇機業株式会社）	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 21 年 2 月 23 日現在

【行　政】

農林水産省	http://www.maff.go.jp
経済産業省	http://www.meti.go.jp/

【蚕糸絹業関係団体】

（財）大日本蚕糸会	http://www.silk.or.jp
（社）日本絹業協会（ｼﾞｬﾊﾟﾝｼﾙｸｾﾝﾀｰ）	http://www.silk-center.or.jp
（社）日本生糸問屋協会	http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/
（財）日本真綿協会	http://www.mawata.or.jp/
丹後織物工業組合	http://www.tanko.or.jp/
西陣織工業組合	http://www.nishijin.or.jp/
ＴＡＦＳ（東京織物卸商業組合）	http://www.tafs.or.jp/
ＫＯＭＳ（京都織物卸商業組合）	http://www.fashion-kyoto.or.jp/
京都和装産業振興財団	http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html
（財）伝統的工芸品産業振興協会	http://www.kougei.or.jp/

【取引所】

東京穀物商品取引所	http://www.tge.or.jp/japanese/index.shtml
関西商品取引所	http://www.kanex.or.jp/

【大学・試験研究機関】

（国）東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室
http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html

（国）東京農工大学農学部生物生産学科	http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/
（国）東京農工大学工学部生命工学科	http://www.tuat.ac.jp/~seimei/
（国）京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程	http://www.bio.kit.ac.jp/
（国）京都工芸繊維大学	http://www.kit.ac.jp/
（国）信州大学繊維学部	http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/
（国）名古屋大学農学部	http://www.agr.nagoya-u.ac.jp
（独）農業生物資源研究所	http://www.nias.affrc.go.jp
（財）大日本蚕糸会　蚕糸科学研究所	http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html
（財）大日本蚕糸会　蚕業技術研究所	http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター（群馬県トップページ＞産業・労働＞試験研究＞蚕糸技術センター）
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場（群馬県トップページ＞産業・労働＞試験研究＞繊維工業試験場）
http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター	http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html
京都市産業技術研究所繊維技術センター	http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html

【博物館】

（財）ｼﾙｸｾﾝﾀｰ国際貿易観光会館　ｼﾙｸ博物館	http://www.silkmuseum.or.jp/
群馬県立日本絹の里	http://www.nippon-kinunosato.or.jp/
東京農工大学科学博物館	http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html

統 計 資 料 目 次

＜国内＞
（1）蚕糸絹業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
（2）養蚕業の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
（3）養蚕農家数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
（4）収繭量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
（5）都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2007 年）・・・・・・・・・ 58
（6）蚕品種別蚕種製造数量（2007 年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
（7）生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
（8）生糸生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
（9）生糸の繊度別生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
（10）生糸相場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
（11）絹需給の推移（生糸量換算試算）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
（12）製糸工場の原料繭需給 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
（13）器械製糸工場の操業状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
（14）生糸在庫数量の内訳 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
（15）蚕糸関係品目別輸入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
（16）生糸原産国別輸入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
（17）絹糸原産国別輸入状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
（18）織物の生産状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
（19）絹人繊織物製造業者の絹織物生産状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
（20）丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
（21）全国全世帯消費支出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
＜海外＞
（1）世界主要国の家蚕繭生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
（2）世界主要国の家蚕生糸生産数量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
（3）中国省別桑園面積、家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数 ・・・ 77
（4）中国省別家蚕繭生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
（5）中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況 ・・・・・・・・・・ 79
（6）ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
（7）ブラジルの生糸、絹糸及び副蚕糸の内需、輸出別販売状況 ・・・・・・・ 81

ー資料・国内ー

(1)蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item / 年次（暦年） Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家戸数 Number of Silk-Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸生産量 Raw Silk Production	運転工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人繊織機設備台数（保有台数） Number of Silk Loom	絹織物生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq.meters
昭和50年 1975	248,400	91,219	367	333.9	123	87	311.3	156,494
55年 1980	165,590	73,061	441	267.6	105	81	279.2	143,708
60年 1985	99,710	47,274	474	158.6	67	87	212.5	107,499
平成３年 1991	44,010	20,821	473	91.4	50	75	161.7	76,089
４年 1992	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
５年 1993	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
６年 1994	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
７年 1995	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
８年 1996	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
９年 1997	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
10年 1998	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
11年 1999	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
12年 2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
13年 2001	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
14年 2002	2,360	880	373	6.5	7	68	51.2	26,826
15年 2003	2,070	780	377	4.8	6	64	48.7	23,935
16年 2004	1,850	683	369	4.4	5	62	45.6	21,895
17年 2005	1,591	626	393	2.5	2	62	43.7	19,816
18年 2006	1,345	505	375	2.0	2	83	41.6	18,507
19年 2007	1,169	433	370	1.8	2	83	40.0	15,482
前年対比(%) 2007/06	86.9	85.7	98.9	90.0	100.0	100.0	96.2	93.4

資料 ・養蚕業及び製糸業は農林水産省生産局調査によるものである。
ただし、平成１３年以前の養蚕業は農林水産省統計部調査である。
・絹業は経済産業省調査によるものである。 平成１８年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

（注）製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況である。

Source: Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling)
The Statistic Department, MAFF (Sericultural industry, before 2001)
The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills.

(2)養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項目 Item / 年次 Year	養蚕農家数 Farm households raising silk-worm	桑栽培面積 Growing area of mulberry	桑使用面積 Harvested area of mulberry	蚕種掃立卵量 Silk-worm eggs used	1箱当り収繭量 Cocoon production per box of silk-worm eggs used	収繭量 Cocoon production	1戸当り栽培面積 Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	1戸当り掃立卵量 Box of silk-worm eggs used per farm household raising silk-worm	1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
対前年比 2007/06(%)	86.9	88.9	85.7	87.2	103.6	85.7	102.0	100.0	98.9

資　　料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source　：The Statistics and Information Department,Ministry of Agriculture,Foreatry and Fisherises（～2001）.
The Agricultural Production Bureau,Ministry of Agriculture,Forestry and Fisheries（2002～）.

(3)養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

項目 Item / 年次 Year	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993	27,180	24,160	17,450	20,740
1994	19,040	16,790	13,190	14,790
1995	13,640	12,450	9,560	9,580
1996	7,890	6,980	5,000	6,290
1997	6,310	5,650	4,420	5,120
1998	5,070	4,550	3,750	4,120
1999	4,030	3,600	2,710	3,280
2000	3,280	2,970	2,170	2,700
2001	2,730	2,410	1,870	2,270
2002	2,360	1,992	1,720	1,918
2003	2,070	1,875	1,503	1,751
2004	1,850	1,621	1,371	1,551
2005	1,591	1,420	1,061	1,345
2006	1,345	1,215	852	1,102
2007	1,169	1,052	726	988
対前年比 2007/06(%)	86.9	86.6	85.2	89.7

資　料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source　：The Statistics and Information Department,Ministry of Agriculture,Foreatry and Fisherises(～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau,Ministry of Agriculture,Forestry and Fisheries (2005～).

(4)収繭量の推移
Cocoon Production

項目 Item / 年次 Year	年計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積10a当たり収繭量（年間） Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
対前年比 2007/06(%)	85.7	83.7	90.2	85.5	98.9	96.5	106.3	95.5	102.8
構成比(%)	100.0	40.4	25.4	34.2					

資　料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年，参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source ：The Statistics and Information Department,Ministry of Agriculture,Foreatry and Fisherises(～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau,Ministry of Agriculture,Forestry and Fisheries (2005～).

(5)都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2007年）

Farm households rising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2007

項目 Item / 県別 Each Prefecture	年計 Annual total			春繭 spring silk-worm		初秋繭 Early autumn silk-worm		晩秋繭 late autumn silk-worm	
	養蚕農家数 Farm households rising silk-worm	桑使用面積 Harvested area of mulberry	収繭量 Cocoon production	養蚕農家数 Farm households rising silk-worm	収繭量 Cocoon production	養蚕農家数 Farm households rising silk-worm	収繭量 Cocoon production	養蚕農家数 Farm households rising silk-worm	収繭量 Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩手 Iwate	34	32	11.8	24	2.9	34	4.5	34	4.3
宮城 Miyagi	41	42	12.7	28	4.5	27	4.1	32	4.2
山形 Yamagata	19	26	7.6	13	3.1	13	1.6	17	2.8
福島 Fukushima	114	179	56.6	98	19.5	85	16.4	100	20.7
茨城 Ibaragi	43	45	17.9	41	7.6	34	4.6	36	5.6
栃木 Tochigi	53	100	40.2	52	15.6	34	8.1	49	16.5
群馬 Gunma	471	515	185.6	439	78.0	275	46.9	429	60.7
埼玉 Saitama	114	92	38.0	109	15.5	81	9.7	97	12.8
千葉 Chiba	19	9	4.2	18	1.8	8	1.1	12	1.2
神奈川 Kanagawa	14	..	3.0	11	1.1	10	0.6	14	1.2
山梨 Yamanashi	43	28	13.3	36	6.4	15	2.4	33	4.5
長野 Nagano	54	34	15.9	48	6.3	42	4.4	39	5.3
岐阜 Gifu	38	15	5.3	30	2.6	14	0.8	25	2.0
徳島 Tokushima	31	12	6.0	29	2.9	17	1.3	21	1.8
愛媛 Ehime	22	20	8.1	22	3.0	18	2.6	18	2.5
熊本 Kumamoto	15	7	2.1	14	1.4	9	0.4	8	0.3
その他 Others	44	16	1.9	40	2.8	10	0.5	24	1.7
全国計 Total	1,169	1,172	433.2	1,052	175.0	726	110.0	988	148.1

資　料：農林水産省生産局調査。

Source　: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6)蚕品種別蚕種製造数量（2007年）

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2006年夏秋蚕用 for summer & autumn reeling		2007春蚕用 for spring reeling		2007夏秋蚕用 for summer & autumn reeling		合計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦秋×鐘和	3,280	40.3	1,770	22.1	2,400	40.1	7,450	33.6
錦秋1号×鐘和1号	2,900	35.6			2,600	43.5	5,500	24.8
春嶺×鐘月			1,200	15.0			1,200	5.4
春嶺1号×鐘月1号			2,600	32.4			2,600	11.7
ぐんま×２００	1,395	17.1	1,832	22.8	480	8.0	3,707	16.7
朝・日×つくば・ね			100	1.2	500	8.4	600	2.7
世・紀×二・一	86	1.1	67	0.8			153	0.7
芙蓉×つくば・ね	100	1.2					100	0.5
鐘光×黄玉								
ぐんま黄金	16	0.2	38	0.5			54	0.2
新青白			38	0.5			38	0.2
新小石丸	283	3.5	222	2.8			505	2.3
小石丸	3	0.0	18	0.2			21	0.1
かいりょう×あけぼの								
改良しんあけぼの								
蚕太			22	0.3			22	0.1
上州絹星	77	0.9	118	1.5			195	0.9
合計 Total	8,140	36.8	8,025	36.2	5,980	27.0	22,145	100.0

資　料：農林水産省生産局調査。

Source　: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7)生糸需給及び絹糸、絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply and Demand Balance, Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item / 年月 Year & Month	生糸 Raw Silk					絹糸 Silk Yarn		絹織物 Silk Fabrics	
	生産数量 Produ-ction (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2002	6,521	31,702	—	37,265	25,955	28,089	124	12,248	6,843
2003	4,791	30,827	1,510	34,166	25,897	33,044	183	12,544	7,111
2004	4,387	26,008	12,500	29,585	14,207	29,774	331	13,127	7,274
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,964	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
生糸年度 Silk Year									
2002	5,953	30,510	—	35,462	26,794	28,150	154	11,747	6,986
2003	4,517	30,411	6,635	33,333	21,754	33,261	182	13,036	7,206
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2007 - 10	153	1,438	—	1,397	8,231	2,222	57	1,011	604
11	150	1,357	—	1,320	8,418	1,989	42	1,121	586
12	146	885	—	1,369	8,080	1,667	21	1,125	721
2008 - 1	130	918	—	1,249	7,879	2,021	8	1,295	416
2	135	787	—	1,487	7,314	1,769	18	770	670
3	153	1,459	—	1,415	7,511	1,689	33	865	685
4	160	505	—	3,444	4,732	2,220	45	1,107	644
5	155	3,574	—	3,180	5,281	2,067	73	1,068	577
6	136	1,362	—	1,603	5,176	2,087	109	1,150	608
7	137	1,517	—	1,527	5,303	2,459	26	1,147	541
8	119	1,129	—	1,231	5,320	2,311	20	916	514
9	115	1,134	—	1,185	5,384	1,979	15	941	590
10	122	1,280	—	1,823	4,963	1,451	57	885	670
11	108	682	—	967	4,786	1,518	53	809	686
2008.1～11	1,470	14,347	—	19,111	4,786	21,571	457	10,953	6,601
2007.1～11	1,601	11,716	—	14,255	8,418	17,773	384	10,230	6,462
2008.6～11	737	7,104	—	8,336	4,786	11,805	280	5,848	3,609
2007.6～11	883	7,436	—	8,142	8,418	11,503	235	6,025	3,501

資　料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備　考：1.国内引渡数量(D)＝｛前月在庫数量+(A)+(B)｝－｛(C)+(E)｝。
2.kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.
(F)(G)(H)(I)TheCustoms Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-{(C)+(E)}.
2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸生産数量の推移
Production of Raw Silk

（単位：60kg俵）
(Unit : Bales of 60kg)

項目 Item / 年月 Year & Month	生糸及び玉糸 Raw Silk and Doupion Silk				
	計 Total	器械製糸 Machine Reeling Mills	国用製糸及び器械玉糸 Domestic Raw Silk Reelers & Machine Reeling Mills		繭品質評価機関 Cocoon Quality Grading Stations
暦年 Calendar Year					
2002	6,521	5,617	904		・・
2003	4,791	4,000	791		・・
2004	4,387	3,634	753		・・
2005	2,508	1,735	773		・・
2006	1,956	1,417	539		・・
2007	1,747	1,227	520		・・
生糸年度 Silk Year					
2002	5,953	5,128	825		・・
2003	4,517	3,735	782		・・
2004	3,868	3,110	758		・・
2005	2,024	1,329	695		・・
2006	1,794	1,285	509		・・
2007	1,762	1,231	531		・・
2007 - 10	153	105	48		・・
11	150	103	47		・・
12	146	102	44		・・
2008 - 1	130	91	39		・・
2	135	91	44		・・
3	153	105	48		・・
4	160	115	45		・・
5	155	112	43		・・
6	136	106	30		・・
7	137	108	29		・・
8	119	91	28		・・
9	115	91	24		・・
10	122	99	23		・・
11	108	86	22		・・
2008.1～11	1,470	1,095	375		・・
2007.1～11	1,601	1,125	476		・・
2008.6～11	737	581	156		・・
2007.6～11	883	615	268		・・

資　　料：農林水産省生産局調査。
備　　考：1.生糸年度は6月から翌年5月までである。
　　2.kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
Source　：The Agricultural Production Bureau,Ministry of Agriculture,Forestry and Fisheries.
Remarks　：1.Silk year ranges from June to May of the following year.
　　2.Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9)生糸の繊度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項目 Item / 年月 Year & Month	生糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦年 Calendar Year						
2002	6,521	3	429	3,178	1,937	975
2003	4,791	13	343	2,865	1,038	533
2004	4,387	2	471	2,389	948	581
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
生糸年度 Silk Year						
2002	5,953	8	316	3,273	1,649	706
2003	4,517	7	334	2,689	955	530
2004	3,868	4	482	1,845	918	622
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2007 — 10	153	—	14	55	60	24
11	150	—	29	36	36	48
12	146	1	13	38	42	52
2008 — 1	130	—	14	26	40	50
2	135	4	31	10	33	57
3	153	—	29	29	47	46
4	160	—	35	35	36	53
5	155	—	21	40	38	56
6	136	—	19	44	33	40
7	137	—	22	40	26	49
8	119	—	17	36	20	47
9	115	—	25	35	30	25
10	122	—	33	36	25	28
11	108	—	20	40	20	28
2008.1～11	1,470	4	266	371	348	479
2007.1～11	1,601	—	246	457	472	422

資　　料：農林水産省生産局調査。
備　　考：kgを60kg俵に換算しているので、各月の計と合計とが一致しない場合がある。
Source　：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.
Remarks　：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10)生糸相場及び国産生糸価格実態

Raw Silk Quotations and Japanese Raw Silk Actual Condition Price

1 東京穀物商品取引所(生糸先物取引)　The Tokyo Grain Exchange (Raw Silk Futures Trading)

(1) 商況　State of Market

12 月：月初 1 日は、手掛かり材料難からバイカイで始まり、4・5 月限が月中の最高値段 3,141 円を記録した。3 日から 5 日にかけては小口の売りに期先限月がストップ安を付ける等急落した。9 日から 11 日にかけても一部限月がストップ安を付け、11 日には 5 月限が月中の最低値段 2,306 円を記録する等続落した。19 日の当月限納会は前日同値の 3,098 円で納まり、受渡数量は無しとなった。22 日の新甫 6 月限は同鞘の 2,306 円で発会した。その後も見送られて大納会となった。

09 年 1 月：新年大発会の 5 日は、見送り気分強くバイカイで始まり、1 月限が月中の最高値段 2,990 円を記録し、5・6 月限が月中の最低値段 2,306 円を記録した。その後もバイカイに終始し、27 日の当月限納会は前日同値の 2,990 円と平穏に納まり、受渡数量は無しとなった。28 日の新甫 7 月限は同鞘の 2,306 円で発会して今月を終わった。

(2) 先物約定値段　Monthly Prices of Futures Contracts Traded　単位：円／kg

	限月	始値	高値	(日)	安値	(日)	終値
12 月中	12 月限	3,098	3,098	(1)	3,098	(1)	3,098
	1 月限	2,990	2,990	(1)	2,990	(1)	2,990
	2 月限	3,001	3,001	(1)	2,861	(11)	2,861
	3 月限	3,001	3,001	(1)	2,582	(11)	2,582
	4 月限	3,141	3,141	(1)	2,443	(11)	2,443
	5 月限	3,141	3,141	(1)	2,306	(11)	2,306
	6 月限	2,306	2,306	(22)	2,306	(22)	2,306

	限月	始値	高値	(日)	安値	(日)	終値
1 月中	1 月限	2,990	2,990	(5)	2,990	(5)	2,990
	2 月限	2,861	2,861	(5)	2,861	(5)	2,861
	3 月限	2,582	2,582	(5)	2,582	(5)	2,582
	4 月限	2,443	2,443	(5)	2,443	(5)	2,443
	5 月限	2,306	2,306	(5)	2,306	(5)	2,306
	6 月限	2,306	2,306	(5)	2,306	(5)	2,306
	7 月限	2,306	2,306	(28)	2,306	(28)	2,306

(3) 出来高合計及び一日平均出来高　Total Trading Volume and Daily Average Volume　単位：枚／60 kg

	出来高合計	一日平均
12 月中	245	12
1 月中	221	12

(4) 受渡高　Delivery　単位：枚／300 kg

	早受渡	期日受渡	計
12 月中	0	0	0
1 月中	0	0	0

2　現物標準値の推移　Standard Price of Raw Silk　単位：円／kg

	東京市場　Tokyo Exchange Market		
	最高 High	最低 Low	平均 Average
平成 20 年 12 月	3,100	3,020	3,090
平成 21 年 1 月	3,000	2,880	2,986

資料:(社)日本生糸問屋協会 S0urce:Japan Raw Silk Dealers Association

3 国産生糸価格実態　Japanese Raw Silk Actual Condition Price　単位：円／kg

繊度　Size	21d	27d	31d
平成 20 年 1 月	4,579	3,813	3,504
2 月	4,226	3,630	3,532
3 月	3,997	3,565	3,445
4 月	4,373	3,625	3,459
5 月	4,059	3,750	3,431
6 月	4,325	3,761	3,479
7 月	4,173	3,795	3,577
8 月	4,481	3,741	3,499
9 月	4,386	3,794	3,540
10 月	4,363	3,885	3,539
11 月	4,140	3,809	3,461

注 :国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料:(社)日本生糸問屋協会 Source:Japan Raw Silk Dealers Association

(11)絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

（単位：千俵）
(Unit : 1,000Bales of 60kg)

項目 Item / 暦年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末在庫 Ending Stocks ④
		期初在庫 Opening Stocks	生産 Production	輸入 Import						輸出 Export					内需 Domestic Demand ②-③	
				計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second		計 ③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second		
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
対前年比 2007/06 (%)	87.7	91.7	100.0	86.3	65.0	59.4	87.5	93.6	86.4	95.5	—	100.0	90.0	200.0	85.5	92.2

資　料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。
ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source : "Silk balance and price situation monthly","Trade Statistics"(arranged by Agricultural Production Bureau,MAFF)
After 2000,estimated by Raw Silk Dealer's Association through colaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(12)製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)
(Unit : Ton by fresh weight)

項目 Item / 年月 Year & Month	総計 Grand Total			うち器械製糸工場 Machine Reeling Mills		
	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year						
2002	1,559	2,150	775	1,366	1,822	708
2003	1,598	1,612	761	1,302	1,330	679
2004	1,291	1,500	553	1,039	1,228	489
2005	866	830	589	540	552	478
2006	600	646	541	405	445	436
2007	548	581	505	345	390	391
生糸年度 Silk Year						
2002	1,921	1,972	525	1,764	1,674	480
2003	1,477	1,554	448	1,162	1,273	368
2004	1,056	1,280	224	794	1,008	154
2005	839	673	390	531	419	266
2006	562	599	349	405	410	260
2007	502	583	266	344	388	215
2007 — 10	135	50	533	120	32	454
11	3	50	486	3	33	424
12	68	48	505	-1	32	391
2008 — 1	-1	43	461	-1	29	361
2	-2	44	416	-2	28	332
3	-8	52	356	-9	34	288
4	14	51	319	0	35	253
5	1	52	266	-1	36	215
6	49	44	272	9	33	191
7	117	45	343	104	34	260
8	54	39	359	53	29	284
9	28	37	350	27	28	283
10	82	38	417	80	30	333
11	60	36	486	36	28	342
2008.1～11	394	481	350	297	344	342
2007.1～11	480	533	448	346	358	424

資　　料：農林水産省生産局調査。

備　　考：1.本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2.総計は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。なお国用製糸及び玉糸製糸は乾繭重量調査のため、乾繭歩合42%にて生繭重量に換算した。

3.受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. The grand total includes the material cocoons at the machine-reeling mills, reelers of raw silk for domestic use, cocoon quality appraisal stations and doupion silk producers.
In addition, reelers of raw silk for domestic use and doupion silk producers reported in dry cocoon weight, which was converted into fresh by dividing by 42%.

3. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(13)器械製糸工場の操業状況
Activities of Machine Reeling Mills

項目 Item / 年月 Year & Month	運転工場数 Operating Reeling Mills	設備数(台) Reeling Machines		運転率 (%)	操業日数 Days	従業者数
		運転可能 Operable	運転 Operating	Operating Ratio	Operated	Number of Workers
暦年 Calendar Year						
2002	7	607	414	68	290	207
2003	6	444	285	64	290	173
2004	5	426	262	62	292	165
2005	2	203	126	62	269	83
2006	2	114	94	82	266	59
2007	2	112	93	83	266	57
2007 — 2	2	112	93	83	21	60
3	2	112	94	84	23	60
4	2	112	93	83	23	56
5	2	112	94	84	22	55
6	2	112	92	82	23	55
7	2	112	89	79	23	55
8	2	112	92	82	21	55
9	2	112	89	79	22	56
10	2	112	92	82	24	60
11	2	112	96	86	22	58
12	2	112	94	84	22	57
2008 — 1	2	112	95	85	20	58
2	2	112	94	84	22	57
3	2	112	96	86	22	58
4	2	112	100	89	23	60
5	2	112	100	89	22	60
6	2	112	95	85	23	60
7	2	112	92	82	23	60
8	2	112	91	81	21	56
9	2	112	84	75	23	55
10	2	112	87	78	24	55
11	2	112	94	84	21	52

資　料：農林水産省生産局調査。

備　考：1.設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。
2.運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。
3.従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source　: The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(14)生糸在庫数量の内訳
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit：Bales of 60kg)

項目 Item / 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一般在庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場売買業者 Dealers	生糸市場外売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出入業者 Ex and Importers	受入数量 Accepts	引渡数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year									
2002	25,955	5,932	1,358	605	3,772	197	31,702	31,809	20,023
2003	25,897	8,001	1,663	235	5,784	319	30,827	32,954	17,896
2004	14,207	10,082	2,055	183	7,360	484	26,008	39,779	4,125
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
生糸年度 Silk Year									
2002	26,794	6,771	1,837	445	4,207	282	30,510	30,617	20,023
2003	21,754	9,163	1,842	560	6,516	245	30,411	37,843	12,591
2004	7,274	7,274	1,636	50	5,170	418	20,154	32,745	—
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
20007 — 10	8,231	8,231	383	15	7,501	332	1,438	1,438	—
11	8,418	8,418	366	15	7,724	313	1,357	1,357	—
12	8,080	8,080	359	20	7,358	343	885	885	—
2008 — 1	7,879	7,879	350	15	7,193	321	918	918	—
2	7,314	7,314	327	10	6,607	370	787	787	—
3	7,511	7,511	321	15	6,774	401	1,459	1,459	—
4	4,732	4,732	310	15	3,664	743			
5	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
6	5,176	5,176	299	15	4,100	762			
7	5,303	5,303	312	20	4,245	726			
8	5,320	5,320	310	15	4,126	869			
9	5,384	5,384	302	15	4,179	888			
10	4,963	4,963	312	15	3,799	837			
11	4,786	4,786	296	15	3,687	788			

資　料：一般在庫の製糸工場は農林水産省調査。生糸市場売買業者、生糸市場外売買業者及び生糸輸出入業者については日本生糸問屋協会調査。

備　考：製糸工場は器械製糸、国用製糸、繭品質評価機関及び玉糸製糸の合計である。

Source　：The Agricultural Production Bureau,Ministry of Agriculture,Forestry and Fisheries.Japan Raw Silk Dealers Association.

Remarks：Figures for filatures are the sum total of the closing stocks in machine-reeling filatures,
reelers of raw silk for domestic use,cocoon quality appraisal stations and doupion reelers.

(15)蚕糸関係品目別輸入状況(平成15年～20年11月)
Breakdown of Silk-Related Products Imports (2003～Nov 2008)

	単位 Unit	平成20年(2008) (11月) Nov	平成20年(2008) (累計) Accumulated Total	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	平成17年 (2005)	平成16年 (2004)	平成15年 (2003)	19年/18年 2007/06 (%)
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	682	14,558	12,857.9	21,147.8	22,915.1	25,418.8	31,379.9	60.8
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,518	21,571	19,439.2	31,524.4	32,699.5	29,744.5	33,043.6	61.7
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	0	316.8	333.4	429.9	520.0	933.6	1,109.1	77.6
繭 Cocoon	kg	4,000	4,000	13,750	18,565	16,300	203,604	258,285	74.1
真綿 Floss Silk	kg	1,384	24,161	28,660	34,176	45,186	25,320	55,969	83.9
ペニー Peigne	kg	240	1,930	6,336	19,760	15,068	14,952	7,308	32.1
くず繭 Waste Cocoon	kg	0	16,701	17,184	1,020	3,650	6,797	3,540	1,684.7
絹ノイル Silk Noil	kg	3,050	199,793	242,082	234,894	216,422	293,373	231,277	103.1
その他の絹くず Other Silk Waste	kg	11,680	182,045	238,507	255,951	319,072	267,341	346,689	93.2
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	16,354	424,630	532,769	545,801	878,398	607,783	584,783	97.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	31,712	481,102	608,270	756,065	847,200	781,454	832,514	80.5
絹紡紬糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	6,030	140,657	117,265	208,913	202,901	244,557	260,508	56.1
絹織物 Silk Fabrics	㎡	731,900	10,166,159	10,381,266	11,859,929	14,782,915	10,823,074	10,373,703	87.5

資料：財務省関税局
Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance

(16) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

（単位：60ｋｇ俵）
(Unit：Bales of 60kg)

国名 Country / 年月 Year & Month	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailnd	その他 Others
生糸年度 Silk Year						
2006	13,394 (172)	8,761 (125)	4,454 (42)	5 (5)	174	−
2007	15,564 (121)	11,179 (88)	4,217 (33)	−	168 (−)	−
暦年 Calendar Year						
2006	19,974 (177)	14,042 (103)	5,705 (69)	5 (5)	222	−
2007	12,601 (157)	8,841 (132)	3,554 (25)	−	206	−
2007 − 1	748 (15)	408 (15)	322	−	18	−
2	1,084 (31)	735 (25)	321 (6)	−	28	−
3	725 (5)	330 (5)	395	−	−	−
4	851 (21)	624 (19)	227 (2)	−	−	−
5	872 (20)	693 (15)	175 (5)	−	4	−
6	1,241	861	380	−	−	−
7	861 (2)	624	237 (2)	−	−	−
8	1,277 (10)	985 (5)	258 (5)	−	34	−
9	1,262 (23)	876 (23)	338	−	48	−
10	1,438 (5)	980	436 (5)	−	22	−
11	1,357 (5)	1,105 (5)	225	−	27	−
12	885 (20)	620 (20)	240	−	25	−
2008 − 1	1,041 (8)	824	213 (8)	−	4	−
2	849 (5)	580 (5)	267	−	2	−
3	1,483 (14)	1,036 (10)	448 (4)	−	−	−
4	505	314	191	−	−	−
5	3,574 (29)	2,542 (20)	1,026 (9)	−	6	−
6	1,362 (5)	1,128	233 (5)	−	1	−
7	1,517 (21)	1,090 (21)	407	−	20	−
8	1,129 (29)	726 (15)	385 (14)	−	18	−
9	1,134 (21)	906 (21)	212	−	17	−
10	1,280	913	347	−	20	−
11	682 (5)	512	151 (5)	−	20	−
2008.1〜11	14,556 (137)	10,571 (92)	3,880 (45)	−	108	−
2007.1〜11	11,716 (157)	8,221 (132)	3,314 (25)		181	−

資　　料：財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までは農畜産振興機構調査の数値
備　　考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
2. （ ）書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Allic since Jan. 1996 until Mar 2008.
Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume bue to round off.
2. Figures in perenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(17) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

（単位：60kg俵）
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country / 年月 Year & Month	計 Total	韓国 S Korea	中国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦年 Calendar Year								
2005	32,700	292	18,977	7,550	7	—	5,867	6
2006	31,524	94	17,019	8,706	27	—	5,675	3
2007	19,439	21	11,726	4,743	12	1	2,930	7
生糸年度 Silk Year								
2005	36,113	143	21,337	8,983	18	—	5,621	8
2006	21,561	78	11,212	5,735	18	1	4,518	3
2007	22,936	7	13,263	6,344	15	—	3,297	10
2007 — 2	997	—	634	245	2	—	116	—
3	936	—	512	167	—	1	256	—
4	1,317	21	783	398	1	—	116	—
5	1,667	—	1,119	267	0	—	280	—
6	1,711	—	1,134	409	4	—	164	—
7	1,872	—	1,153	487	1	—	231	—
8	1,775	—	1,154	466	1	—	154	0
9	1,935	—	1,239	520	—	—	176	—
10	2,222	—	1,224	638	1	—	358	—
11	1,989	—	1,136	567	2	—	281	4
12	1,667	—	930	371	0.4	—	365	—
2008 — 1	2,021	—	1,236	447	0	—	338	0
2	1,769	—	853	746	0	—	170	0
3	1,689	7	871	418	1.0	—	390	2
4	2,220	—	1,187	660	5	—	366	2
5	2,067	—	1,146	615	—	—	304	2
6	2,087	23	1,302	600	—	—	161	1
7	2,459	—	1,502	555	2	—	400	—
8	2,311	—	1,275	753	1	—	282	—
9	1,979	—	1,103	644	1	—	226	5
10	1,451	—	781	462	—	—	208	—
11	1,518	—	645	687	—	—	186	1
2008.1～11	21,571	30	11,901	6,587	10	—	3,031	12
2007.1～11	17,774	21	10,796	4,373	12	1	2,564	7

資　　料：財務省関税局調査。
備　　考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。
Source　：The Customs Bureau, Ministry of Finance.
Remarks　：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(18)織物生産数量

Fabric Production

(単位：1,000㎡)

(Unit：1,000sq.meters.)

項目 / 年月 Item / Year& Month	計 Total	綿織物 Cotton Fabrics	絹織物 Silk Fabrics	絹紡織物 Spun Silk Fabrics	合成繊維織物 Synthetic FiberFabrics	人絹織物 Rayon Filament and Acetate Fabrics	ビスコースフ織物 Viscose staple fabrics	毛織物 Wool Fabrics	麻織物 Bast Fiber Fabrics
暦年 Calendar Year									
2002	2,162,818	539,764	26,824	1,054	1,292,617	69,544	141,816	88,114	3,085
2003	2,031,053	506,696	23,940	728	1,217,413	71,711	129,178	78,071	3,318
2004	1,974,731	479,246	21,970	753	1,209,640	67,540	116,294	75,662	3,326
2005	1,837,703	425,460	19,816	579	1,146,845	66,231	101,235	72,531	5,006
2006	1,739,863	399,776	17,125	1,381	1,085,577	64,475	95,921	71,007	4,600
2007	1,699,291	367,733	14,262	1,204	1,096,107	63,714	85,308	67,590	3,372
2007 — 2	142,640	32,550	1,238	96	89,908	5,223	8,030	5,356	240
3	146,310	32,627	1,251	96	92,850	5,408	8,091	5,476	510
4	143,211	31,386	1,241	95	91,268	5,240	7,960	5,640	382
5	139,291	31,264	1,150	95	89,177	5,183	6,262	5,912	247
6	143,181	31,427	1,275	98	91,959	5,338	6,963	5,922	200
7	145,873	31,229	1,200	97	94,825	5,438	6,909	5,958	217
8	135,738	28,823	1,036	93	88,065	5,167	6,445	5,949	161
9	138,732	28,451	1,209	125	91,069	5,191	6,904	5,591	192
10	145,544	29,580	1,181	111	96,040	5,567	6,863	5,974	228
11	143,797	29,178	1,217	98	94,956	5,419	6,924	5,748	257
12	141,698	29,412	1,196	101	93,350	5,368	6,652	5,184	436
2008 — 1	133,497	26,858	992	103	89,170	5,072	6,129	4,844	330
2	140,032	28,237	1,193	97	92,787	5,473	7,220	4,799	225
3	142,113	28,482	1,160	99	94,979	5,522	6,804	4,861	207
4	140,452	28,121	1,093	96	93,616	5,555	6,518	5,100	351
5	130,825	27,538	1,097	98	84,908	5,252	6,585	5,099	249
6	132,071	27,348	1,155	101	85,497	5,301	6,916	5,548	205
7	127,911	27,550	1,081	95	81,300	5,341	6,765	5,552	226
8	118,624	25,934	929	88	75,333	4,665	6,394	5,100	182
9	124,907	26,193	1,027	115	81,019	4,693	6,508	5,169	185
10	125,539	27,062	1,007	105	80,677	4,705	6,675	5,077	232
11	121,754	26,737	1,021	91	77,509	4,609	6,749	4,773	263
2008.1～11	1,437,725	300,060	11,755	1,088	936,795	56,188	73,263	55,922	2,655
2007.1～11	1,499,765	276,239	13,081	1,104	1,006,581	58,305	78,838	62,681	2,936

資　料：経済産業省調査。

備　考：交織を含む。

Source　：The Ministry of Economy Trade and Industry.

Remarks ：Mixed fabrics included.

(19)絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics by Silk and Rayon Weavers

(単位：1,000㎡)
(Unit：1,000sq.meters)

品種 Type of Fabrics / 年月 Year & Month	総数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width			その他の後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練(先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先練(先染) Dyed Yarn	
暦年 Calendar Year									
2002	26,715	10,277	4,355	3,251	2,673	11,855	8,030	3,824	4,582
2003	23,822	8,371	3,800	2,464	2,107	11,399	7,653	3,747	4,053
2004	21,859	7,540	3,510	2,190	1,842	10,809	7,346	3,463	3,509
2005	19,698	6,664	2,965	1,903	1,800	10,181	6,900	3,280	2,852
2006	18,153	6,104	2,734	1,728	1,646	9,194	5,882	3,312	2,855
2007	15,182	5,214	2,276	1,547	1,392	7,575	4,578	2,997	2,392
2007 — 2	1,312	427	193	123	111	679	422	256	206
3	1,329	449	200	133	115	658	394	264	222
4	1,317	443	198	125	120	664	409	256	210
5	1,225	440	192	124	124	585	337	248	200
6	1,354	461	194	139	129	683	428	255	210
7	1,276	445	186	138	121	647	391	256	184
8	1,108	392	169	124	99	554	315	239	162
9	1,286	427	187	134	106	661	423	238	197
10	1,262	423	189	122	111	629	377	252	210
11	1,297	451	191	132	127	645	399	245	201
12	1,274	435	187	136	112	639	400	238	200
2008 — 1	1,070	394	180	114	100	501	270	231	175
2	1,269	422	183	129	110	644	407	237	203
3	1,241	419	184	125	110	634	402	232	188
4	1,171	419	189	122	108	585	360	225	167
5	1,176	421	187	121	113	579	353	226	176
6	1,240	429	190	125	114	630	403	227	181
7	1,157	400	177	113	110	562	343	219	195
8	998	337	152	95	89	507	301	205	155
9	1,100	364	156	101	107	555	342	213	182
10	1,084	385	149	123	114	538	322	216	161
11	1,094	403	158	128	117	542	343	199	149
2008.1～11	12,600	4,393	1,905	1,296	1,192	6,277	3,846	2,430	1,932
2007.1～11	13,924	4,778	2,087	1,760	1,280	6,952	4,180	2,771	2,193

資　料：経済産業省調査。
備　考：単位以下四捨五入。

Source　：The Ministry of Economy Trade and Industry.
Remarks　：Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(20)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item / 年月 Year & Month	絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦年 Calendar Year								
2002	26,715	89.6	1,179,219	95.1	229,272	83.7	998,239	79.1
2003	23,822	89.2	1,171,145	99.3	208,660	91.0	922,533	92.4
2004	21,859	91.8	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,698	90.1	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,153	92.2	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,182	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2007 — 2	1,312	80.0	65,785	72.5	8,987	64.5	108,331	173.5
3	1,329	78.0	58,873	64.9	9,660	68.0	80,785	150.1
4	1,317	79.2	62,535	70.1	8,840	63.1	84,654	142.4
5	1,225	79.6	50,444	66.2	7,760	56.3	71,255	139.4
6	1,354	82.4	69,024	77.2	7,169	70.0	84,513	180.8
7	1,276	83.3	61,873	80.3	7,237	69.3	88,894	169.1
8	1,108	82.2	47,776	81.9	6,078	68.9	89,497	211.9
9	1,286	87.4	69,062	92.9	8,439	111.1	70,350	203.0
10	1,262	87.5	58,668	84.8	9,400	100.7	60,982	161.7
11	1,297	94.5	63,195	97.0	8,207	93.1	78,005	154.9
12	1,274	93.0	62,144	89.7	8,097	89.9	67,462	144.6
2008 — 1	1,070	92.4	38,929	90.2	7,511	102.5	56,667	60.9
2	1,269	96.7	65,845	100.1	7,288	81.1	93,343	86.2
3	1,241	93.4	65,402	111.1	7,959	82.4	78,494	97.2
4	1,171	88.9	57,356	91.7	7,964	90.1	74,391	87.8
5	1,176	96.0	55,793	110.6	6,381	82.2	67,669	95.0
6	1,240	91.6	65,862	95.4	9,352	130.5	57,541	68.1
7	1,157	90.7	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	998	90.1	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,100	85.5	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,084	85.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,094	84.3	53,365	84.4	7,973	97.1		
12	1,049	82.3	49,096	79.0	5,890	72.7		
2008.1～12	13,649	89.9	656,889	92.2	88,401	90.9		

資　料：「絹人絹織物製造業者の絹織物生産数量」は経済産業省調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備　考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : The Ministry of Economy Trade and Industry and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan.2006, sash livings are included in sash production.

(21)全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

区分	消費支出総額 T0tal		被服及び履物 Clothing& footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円)	前年比(%)	(円)	前年比(%)	(円)	前年比(%)	(円)	前年比(%)	(円)	前年比(%)	(円)	前年比(%)
2003年	302,623	▲ 1.1	13,967	▲ 4.1	520	21.2	5,478	▲ 4.0	2,889	▲ 2.7	1,272	▲ 4.9
2004年	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005年	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006年	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007年	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2007年5月	293,231	0.4	13,359	▲ 0.6	160	▲ 75.1	4,558	▲ 0.1	3,206	6.5	1,226	0.8
6月	280,587	0.1	13,730	4.8	407	88.7	4,656	7.4	3,493	5.3	1,355	▲ 2.0
7月	291,632	▲ 0.1	13,234	▲ 3.0	391	▲ 14.7	4,692	▲ 0.5	3,341	▲ 6.7	1,231	▲ 9.8
8月	296,035	1.6	9,965	0.7	516	109.3	3,166	▲ 10.0	2,284	▲ 5.8	1,021	▲ 2.4
9月	281,448	3.2	9,858	▲ 4.0	199	▲ 31.0	3,579	▲ 4.0	2,125	▲ 7.0	986	3.0
10月	296,984	0.6	13,481	▲ 2.8	244	▲ 59.7	5,212	▲ 2.0	2,948	▲ 1.3	1,315	10.6
11月	282,836	▲ 0.6	14,292	▲ 0.5	504	185.8	5,773	▲ 9.0	2,692	0.1	1,460	10.9
12月	351,667	2.2	14,816	▲ 5.8	130	▲ 57.8	6,162	▲ 4.4	2,860	▲ 2.6	1,566	▲ 8.0
2008年1月	309,826	3.6	13,981	▲ 5.6	504	35.0	6,212	▲ 3.9	2,768	▲ 7.1	1,079	▲ 1.9
2月	275,565	0.0	10,215	▲ 2.7	308	▲ 41.6	4,351	▲ 6.4	1,864	▲ 1.9	894	11.2
3月	312,565	▲ 1.6	14,035	▲ 0.8	128	▲ 75.0	6,445	▲ 2.6	2,482	5.3	957	8.4
4月	310,695	▲ 2.7	12,778	▲ 4.1	86	▲ 52.5	4,965	▲ 7.7	2,509	▲ 3.9	984	▲ 2.5
5月	288,128	▲ 3.2	12,762	▲ 4.9	211	31.6	4,635	1.3	2,840	▲ 11.7	1,123	▲ 7.7
6月	281,951	▲ 1.8	11,894	▲ 13.8	123	▲ 70.1	4,206	▲ 10.0	2,934	▲ 16.7	1,081	▲ 19.8
7月	298,366	▲ 0.5	13,702	3.2	341	▲ 13.1	4,634	▲ 1.5	3,637	9.1	1,346	9.7
8月	291,154	▲ 4.0	9,945	▲ 0.5	769	48.6	3,124	▲ 1.5	2,259	▲ 0.7	1,060	4.1
9月	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10月	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11月	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12月	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5

資料:総務省「家計調査報告」。2人以上で構成させる8,000世帯を集計。
備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

(1)世界主要国の家蚕繭生産高

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区　分		2001年	2002年	2003年
		トン	トン	トン
日本	Japan	1,031	880	780
中国	China	512,708	545,497	480,774
インド	India	140,000	128,000	117,000
ベトナム	Vietnam	22,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	9,916	10,238	9,966
タイ	Thailand	3,473	3,473	10,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	5,000	3,500	3,200
インドネシア	Indonesia	749	691	
トルコ	Turyey	47	100	169
ブルガリア	Bulgaria	52	50	0.3
ギリシャ	Greece	40	60	60
フィリピン	Philippines	17	28	23
主要国の計	Total	715,033	733,517	663,472

区　分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	
インドネシア	Indonesia			
トルコ	Turyey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
主要国の計	Total	730,910	809,722	934,902

注1　日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸 協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2　不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1Figures ofJapan are based on the data of the Agriculyural Production Bureau,MAFF.
Figures ofChina are based on the data of the China Silk Association.
Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.
Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).
Others than these countries,based on the data of International SericultureCommission (ISC).
2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan(since2002) are not reported,they are taken as the sane amount as previous year because they constitute high prpportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産高

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区　分		2001年		2002年		2003年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	431	7,200	391	6,500	287	4,800
中国	China	62,560	1,042,700	73,585	1,226,400	83,763	1,396,100
インド	India	15,842	264,000	14,617	243,600	13,970	232,800
ベトナム	Vietnam	2,000	33,300	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,484	24,700	1,607	26,800	1,563	26,100
タイ	Thailand	1,500	25,000	1,500	25,000	1,500	2,500
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	770	12,800	630	10,500	500	8,300
インドネシア	Indonesia	110	1,800	91	1,500		
トルコ	Turyey	7	100	17	300	28	500
ブルガリア	Bulgaria	7	100	7	100	0	0
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	3	100	3	100
主要国の計	Total	85,816	1,430,100	95,802	1,596,700	104,968	1,727,100

区　分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600		
インドネシア	Indonesia						
トルコ	Turyey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
主要国の計	Total	101,935	1,699,100	109,848	1,830,800	115,602	1,926,900

注1　日本は農林水産省特産振興課、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2　不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナム、ウズベキスタンは、前者は2003年以降、後者は2002年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures ofJapan are based on the data of the Agriculyural Production Bureau,MAFF.
Figures ofChina are based on the data of the China Silk Association.
Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB),Ministry ofTextiles in India.
Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association(ABRASSEDA).
Others than these countries,based on the data of International Sericulture Commission (ISC).
2 As the figures of Vietnam (since 2003) and Uzbekistan(since2002) are not reported,they aretaken as the sane amount as previous year because they constitute high prpportion of total.

（３）中国省別桑園面積・家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数
Mulberry Farm Area, Domesticated Cocoon Production, Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

区分 / 省 Province		桑園面積 Mulberry Farm Area (10,000ha、%)			家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05	2005	2006	対前年比 2006/05
山　西	Shanxi	0.82	1.10	135	3,913	5,602	143	196	175	89
上　海	Shanghai	0.03	–	–	408	–	–	–	–	–
江　蘇	Jiangsu	9.08	8.98	99	100,539	117,800	117	18,580	20,186	109
浙　江	Zhejiang	7.04	7.40	105	74,838	85,122	114	20,530	19,051	93
安　徽	Anhui	4.67	5.47	117	33,900	37,596	111	3,890	4,038	104
江　西	Jiangxi	1.63	1.90	116	10,577	12,110	114	1,650	1,676	102
山　東	Shandong	5.00	5.00	100	36,845	39,700	108	6,800	6,253	92
河　南	Henan	2.20	2.73	124	8,600	13,390	156	300	318	106
湖　北	Hubei	2.53	2.79	110	13,583	15,706	116	650	536	83
湖　南	Hunan	0.61	0.69	112	3,663	4,100	112	45	50	111
広　東	Guangdong	2.53	5.33	211	34,300	68,750	200	1,100	1,138	103
広　西	Guangxi	9.40	12.00	128	148,460	185,000	125	6,600	8,020	122
重　慶	Chongqing	7.93	7.93	100	31,000	23,828	77	6,500	6,490	100
四　川	Sichuan	10.67	10.67	100	77,500	77,800	100	17,510	21,914	125
貴　州	Guizhou	0.58	0.63	108	1,199	1,254	105	–	–	–
雲　南	Yunnan	5.27	6.25	119	20,095	31,477	157	1,550	1,335	86
陝　西	Shaanxi	4.80	5.00	104	20,272	18,498	91	1,775	1,657	93
甘　粛	Gansu	0.62	0.65	104	537	613	114	–	–	–
寧　夏	Ningxia	0.28	0.33	120	413	475	115	30	59	197
新　彊	Xinjiang	0.50	0.73	145	819	895	109	55	–	–
内 蒙 古	Inner Mong	–	–	–	–	–	–	–	208	–
合　計	Total	76.20	85.57	112	621,461	739,715	119	87,761	93,105	106

製糸工場数（件） Number of Filatures		
2005	2006	前年比 2006/05
702	710	101

資料：中国絲綢協会資料による
注　：合計はラウンドの関係で一致していない。
Source: China Silk Association
Note: Total may not add up due to round off.

（４）中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1995年～2006年)

(単位：万トン)(Unit: 10,000ton)

地域	Area	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	前年比 06/05(%)
北　京	Beijing													
天　津	TianJin													
河　北	Hebei	0.1	0.1		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				
山　西	Shanxi	0.7	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	150.0
内蒙古	Inner Monglia													
遼　寧	Liaoning													
吉　林	Jilin													
黒龍江	Heilongjiang													
上　海	Shanghai	0.3									0.0	0.0		
江　蘇	Jiangsu	18.6	9.2	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	116.8
浙　江	Zhejiang	12.2	8.4	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	113.3
安　徽	Anhui	4.0	2.4	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	111.8
福　建	Fujian													
江　西	Jiangxi	1.6	0.8	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	109.1
山　東	Shandong	5.0	4.1	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	108.1
河　南	Henan	1.8	1.3	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	144.4
湖　北	Hubei	2.2	1.2	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	114.3
湖　南	Hunan	0.3	0.2	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	100.0
広　東	Guangdong	3.3	2.2	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	202.9
広　西	Guangxi	2.1	1.7	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	125.0
海　南	Hainan													
重　慶	Chongqing				2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	77.4
四　川	Sichuan	20.3	12.2	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	100.0
貴　州	Guizhou	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	100.0
雲　南	Yunnan	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	155.0
チベット	Tibet													
陝　西	Shaanxi	1.8	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	90.0
甘　粛	Gansu										0.1	0.1	0.1	100.0
青　海	Qinghai													
寧　夏	Ningxia										0.0	0.0	0.0	
新　疆	Xinjiang	0.6	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	100.0
合　計	Total	76.0	47.1	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	118.8

資料：2003年までは中国国家統計局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。
　　合計はラウンドの関係で一致していない。
Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China
　　Since 2004, China Silk Association
Note: Total may not add up due to round off.

(5)中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China

(2007年1月～12月)

相手国		Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
			数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USドル) (USD1,000,000)	
			2007年実績	07/06(%)	2007年実績	07/06(%)
1	インド	India	8,761,294	257.50	207.499	219.07
2	イタリア	Italy	984,361	85.90	26.280	76.46
3	韓国	South Korea	904,656	143.26	24.108	122.35
4	日本	Japan	776,997	123.68	21.534	96.31
5	ルーマニア	Romania	489,511	ー	12.194	ー
6	ベトナム	Vietnam	482,640	155.90	11.992	115.11
7	パキスタン	Pakistan	262,751	141.70	6.231	122.95
8	バングラデッシュ	Bangladesh	232,782	342.63	5.454	297.22
9	アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	227,815	546.76	5.523	459.87
10	タイ	Thailand	77,551	396.86	2.064	373.24
11	その他	Others	552,798	197.73	14.239	174.45
合計		Total	13,753,156	204.91	337.118	169.93

相手国		Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
			数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USドル) (USD1,000,000)	
			2007年実績	07/06(%)	2007年実績	07/06(%)
1	イタリア	Italy	689,599	80.35	20.953	75.19
2	ドイツ	Germany	502,424	109.64	17.232	105.11
3	インド	India	477,188	109.61	12.711	89.75
4	日本	Japan	446,723	58.08	13.973	48.77
5	パキスタン	Pakistan	370,953	114.06	10.268	101.93
6	タイ	Thailand	121,009	91.61	3.557	83.28
7	韓国	South Korea	116,707	200.41	3.745	194.04
8	トルコ	Turkey	42,935	133.41	1.729	143.72
9	インドネシア	Indonesia	35,227	136.63	0.904	110.78
10	ブラジル	Brasil	28,062	ー	0.863	ー
11	その他	Others	147,452	151.91	5.025	147.71
合計		Total	2,978,279	93.32	90.960	83.62

相手国		Country	絹織物 Silk Fabrics(＞85%Silk)			
			数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USドル) (USD1,000,000)	
			2007年実績	07/06(%)	2007年実績	07/06(%)
1	インド	India	73,950,336	136.02	172.531	124.92
2	イタリア	Italy	30,886,756	110.71	105.778	105.53
3	香港	Hong Kong	26,520,128	115.26	114.749	118.97
4	パキスタン	Pakistan	20,306,364	75.91	41.563	77.57
5	韓国	South Korea	19,590,513	85.01	73.636	86.47
6	日本	Japan	12,961,633	88.53	33.084	83.48
7	アメリカ	United States	8,833,028	89.97	51.711	93.50
8	シンガポール	Singapore	7,608,011	53.18	15.869	38.34
9	アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	5,370,503	104.27	16.772	99.96
10	フランス	France	4,562,695	103.47	17.175	109.10
11	その他	Others	24,301,715	88.31	86.515	90.14
合計		Total	234,891,682	101.72	729.383	98.79

資料:中国税関
Source: Customs General Administration in China

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China

(2008年1月～12月)

相手国		Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
			数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USドル) (USD1,000,000)	
			2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1	インド	India	8,376,916	95.61	198.655	95.74
2	ルーマニア	Romania	1,122,194	229.25	30.163	247.36
3	イタリア	Italy	829,113	84.23	23.391	89.00
4	日本	Japan	662,460	85.26	19.222	89.26
5	ベトナム	Vietnam	628,784	130.28	16.504	137.62
6	韓国	South Korea	561,080	62.02	14.868	61.67
7	パキスタン	Pakistan	246,913	93.97	5.794	92.99
8	バングラデッシュ	Bangladesh	193,213	83.00	4.502	82.55
9	アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	154,721	67.92	3.735	67.63
10	タイ	Thailand	77,128	99.45	2.000	96.87
11	その他	Others	578,870	104.72	14.901	104.65
合計		Total	13,431,394	97.66	333.735	99.00

相手国		Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
			数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USドル) (USD1,000,000)	
			2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1	イタリア	Italy	916,759	132.94	28.804	137.47
2	日本	Japan	627,903	140.56	20.108	143.90
3	インド	India	542,905	113.77	14.939	117.53
4	パキスタン	Pakistan	416,968	112.40	11.742	114.35
5	ドイツ	Germany	395,690	79.76	13.803	80.10
6	タイ	Thailand	211,670	174.92	6.409	180.18
7	トルコ	Turkey	63,941	148.93	2.429	140.48
8	インドネシア	Indonesia	48,415	137.44	1.315	145.49
9	韓国	South Korea	43,601	37.36	1.485	39.64
10	香港	Hong Kong	30,381	828.27	0.960	791.71
11	その他	Others	107,761	62.71	3.921	96.88
合計		Total	3,405,994	114.36	105.915	116.44

相手国		Country	絹織物 Silk Fabrics(＞85%Silk)			
			数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USドル) (USD1,000,000)	
			2008年実績	08/07(%)	2008年実績	08/07(%)
1	インド	India	58,533,788	79.44	139.041	79.72
2	イタリア	Italy	44,916,778	138.52	144.278	131.10
3	香港	Hong Kong	27,767,378	94.40	122.817	97.18
4	パキスタン	Pakistan	20,415,584	99.70	41.814	99.23
5	韓国	South Korea	20,317,354	97.82	79.553	102.23
6	日本	Japan	13,594,742	99.07	37.482	103.06
7	アメリカ	United States	8,349,317	88.03	48.281	86.79
8	シンガポール	Singapore	7,180,679	93.89	19.236	79.86
9	アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	6,901,548	124.54	22.457	70.65
10	マレーシア	Malaysia	6,756,442	186.33	23.028	200.41
11	その他	Others	34,603,876	121.03	125.775	120.81
合計		Total	249,337,487	101.22	803.762	104.13

資料:中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)	暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1985/86	11,353	1985	1,553,776	25,896
1986/87	10,575	1986	1,663,976	27,733
1987/88	11,830	1987	1,658,375	27,640
1988/89	11,470	1988	1,748,996	29,150
1989/90	15,829	1989	1,696,622	28,277
1990/91	17,221	1990	1,693,206	28,220
1991/92	17,586	1991	2,077,155	34,619
1992/93	19,134	1992	2,296,053	38,268
1993/94	18,260	1993	2,325,809	38,763
1994/95	16,260	1994	2,535,440	42,257
1995/96	15,368 (95%)	1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996/97	14,811 (96%)	1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997/98	14,594 (99%)	1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998/99	10,305 (71%)	1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999/2000	8,473 (82%)	1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000/01	9,916 (117%)	2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001/02	10,238 (103%)	2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002/03	9,966 (97%)	2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003/04	8,005 (80%)	2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004/05	7,146 (89%)	2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005/06	8,051 (113%)	2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006/07	8,617 (107%)	2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007/08	6,266 (73%)	2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008/09 〔見込み〕 〔Estimate〕	5,703 (91%)	2008 〔見込み〕 〔Estimate〕	1,223,305 (100%)	20,388

資料:ブラジル製糸協会
注:( )内は対前年比
〔 〕内の見込みは2008年1月現在
Source: ABRASSEDA
Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.
Estimates are as of January 2008.

（7）ブラジル生糸、絹撚糸及び副蚕糸の内需・輸出別販売状況
Domestic Demand and Exports of Raw Silk, Twisted Silk Yarn, and Secondary Silk Yarn in Brazil

単位：ﾄﾝ, ()内は60kg俵
Unit: ton, Figures in Parenthesis: Bales of 60kg

区分		2003年実績	2004年実績	2005年実績	2006年実績	2007年実績	2008年予測 forecast	08/07(%)
生糸 Raw Silk	内需 Domestic Demand	90 (1,503)	106 (1,770)	118 (1,971)	72 (1,202)	84 (1,403)	89 (1,486)	106.0
	輸出 Export	1,057 (17,652)	837 (13,978)	676 (11,289)	782 (13,059)	876 (14,629)	847 (14,145)	96.7
	計 Total	1,147 (19,155)	943 (15,748)	794 (13,260)	854 (14,262)	960 (16,032)	936 (15,631)	97.5
絹撚糸 Twisted Silk Yarn	内需 Domestic Demand	77 (1,286)	71 (1,186)	92 (1,536)	74 (1,236)	78 (1,303)	88 (1,470)	112.8
	輸出 Export	431 (7,198)	516 (8,617)	454 (7,582)	392 (6,546)	274 (4,576)	276 (4,609)	100.7
	計 Total	508 (8,484)	587 (9,803)	546 (9,118)	466 (7,782)	352 (5,878)	364 (6,079)	103.4
糸類計 Total	内需 Domestic Demand	167 (2,789)	177 (2,956)	210 (3,507)	146 (2,438)	162 (2,705)	177 (2,956)	109.3
	輸出 Export	1,488 (24,850)	1,353 (22,595)	1,130 (18,871)	1,174 (19,606)	1,150 (19,205)	1,123 (18,754)	97.7
	計① Total①	1,655 (27,639)	1,530 (25,551)	1,340 (22,378)	1,320 (22,044)	1,312 (21,910)	1,300 (21,710)	99.1
副蚕糸 Secondary Silk Yarn	内需 Domestic Demand	264	123	43	84	72	64	88.9
	輸出 Export	217	386	295	241	256	253	98.8
	計② Total②	481	509	338	325	328	317	96.6
	②／①	29.1	33.3	25.2	24.6	25.0	24.4	

資料：ブラジル製糸協会
注：俵換算は、合計で一致しない場合がある。
Source: ABRASSEDA
Note: Bale value may not add up.

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

http://www.silk-teikei.jp/index.html

シルクレポート　2009 年 3 月号 NO.5　　平成 21 年 3 月 1 日発行

編集 / 発行　**（財）大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター**
（問い合わせ先）　〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL：03-3214-3500
FAX：03-3214-3511
URL:http://www.silk-teikei.jp/index.html

製本／印刷　株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず